

第2章 守口市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状 （修正案）

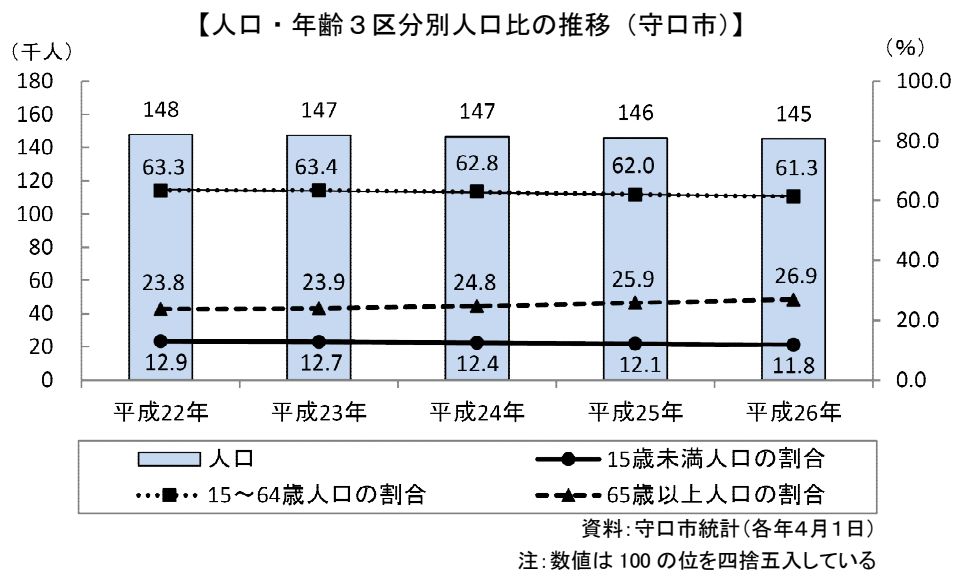
平成26年8月21日版

1. 人口・少子化の動向

(1) 人口の推移と推計

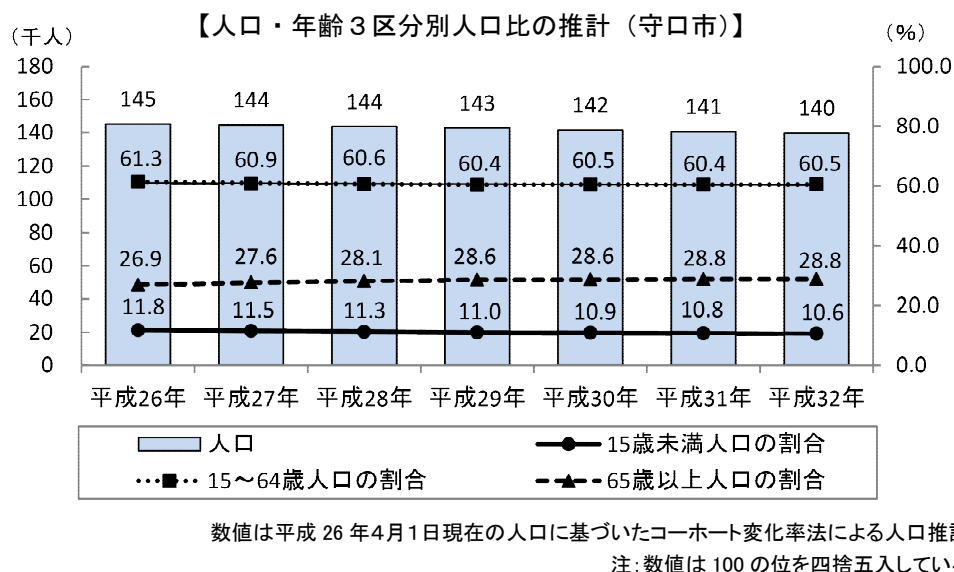
① 人口の推移と年齢3区分別人口比の推移

守口市の人口は横ばいから微減傾向で、平成26年では145千人となっています。年齢3区分別人口比の推移をみると、15歳未満の年少人口比率は年々低下傾向にあり、平成26年では11.8%となっています。これに対し、65歳以上の高齢者人口比率は上昇しており、平成26年では26.9%となっています。



② 将来の人口推計と年齢3区分別人口比の推計

守口市の将来の人口は減少傾向にあり、平成32年には140千人と平成26年から約5千人の減少が予測されています。年齢3区分別人口比をみると、少子高齢化はますます顕著になる傾向が続き、高齢化率*は平成32年には28.8%になると予測されています。



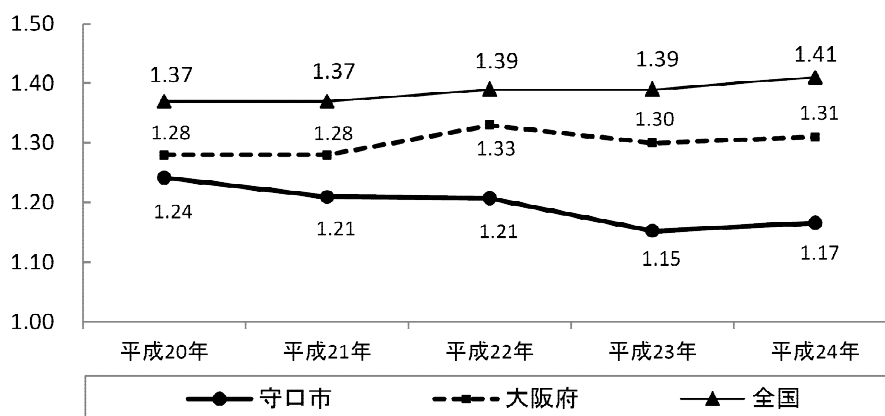
【用語集】 ○高齢化率

(2) 出生の動向

① 合計特殊出生率※の推移

守口市の合計特殊出生率は平成23年から24年にかけて上昇したものの、平成20年から比べると減少傾向にあります。全国・大阪府と比べると、各年最も低い値で推移しています。

【合計特殊出生率の推移（全国・大阪府比較）】

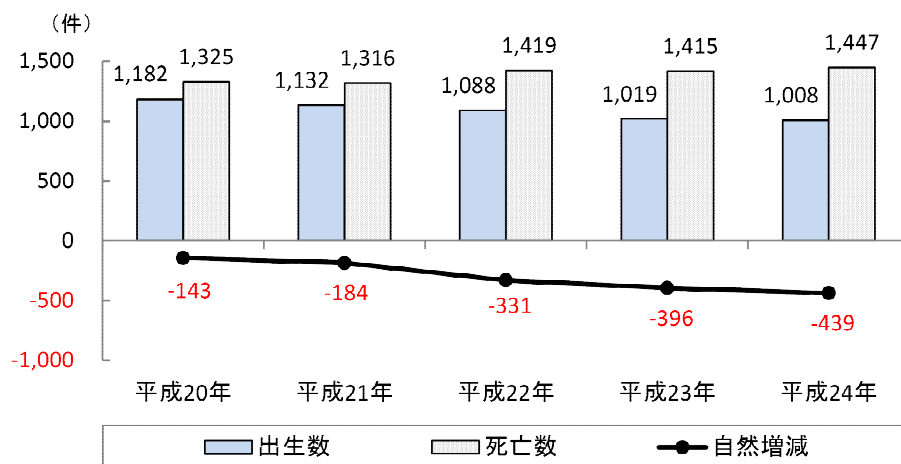


資料: 全国・大阪府は厚生労働省人口動態統計、守口市は守口市統計データより算出

② 自然増減の推移

守口市の出生数、死亡数をみると、各年死亡数が出生数を上回り、自然増減はマイナスとなっています。自然増減については、年々減少し、平成24年では439件のマイナスとなっています。

【出生数と死亡数・自然増減の推移（守口市）】



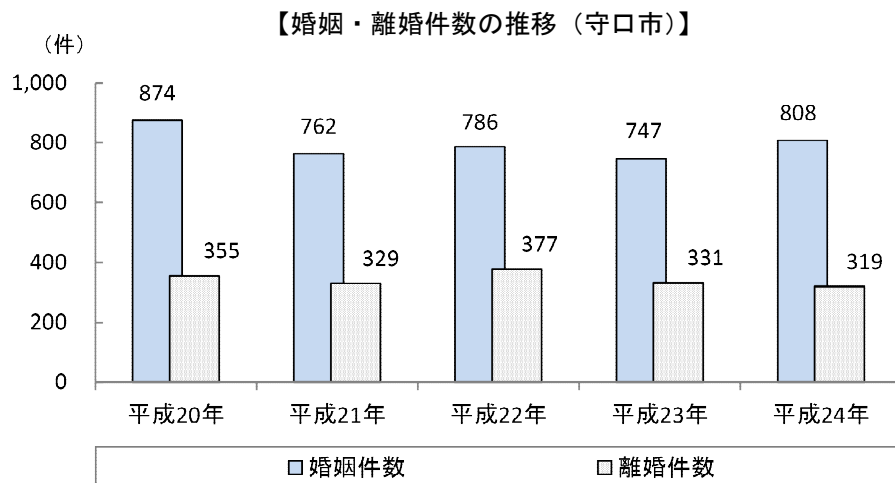
資料: 大阪府人口動態統計データ

【用語集】 ○合計特殊出生率

(3) 婚姻・離婚の動向

守口市の婚姻件数は、平成20年から平成21年にかけて大きく減少し、その後平成23年まで700件台で推移していましたが、平成24年では808件となっています。離婚件数については増減を繰り返し推移し、平成24年では319件となっています。

婚姻率^{*}は平成21年から23年まで、全国及び大阪府より低い値で推移していたものの、平成24年では最も高くなっています。離婚率^{*}については平成21年を除くすべての年で、全国及び大阪府を上回る値となっています。



【婚姻・離婚率の推移（全国・大阪府比較）】

（単位：人口千対）

		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
婚姻率	守口市	6.0	5.2	5.4	5.1	5.6
	大阪府	6.1	6.1	5.9	5.6	5.5
	全 国	5.8	5.6	5.5	5.2	5.3
離婚率	守口市	2.42	2.24	2.57	2.26	2.19
	大阪府	2.37	2.37	2.39	2.23	2.16
	全 国	1.99	2.01	1.99	1.87	1.87

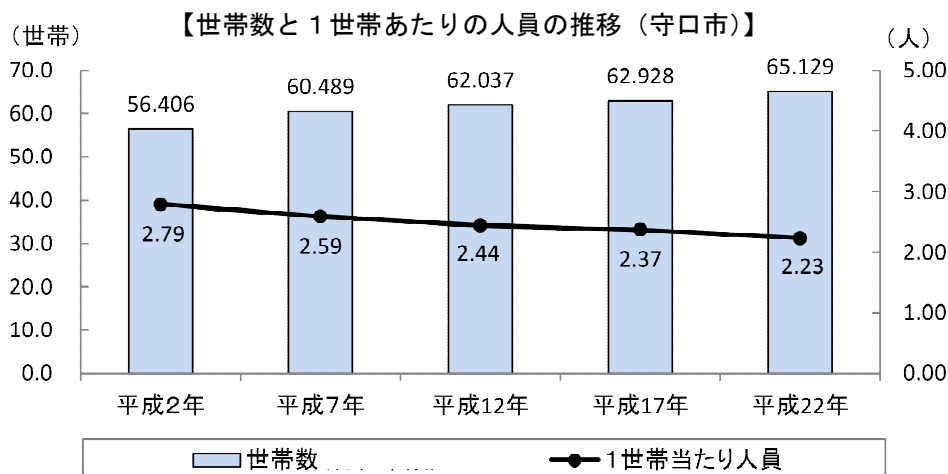
資料：全国は厚生労働省人口動態統計、大阪府、守口市は大阪府人口動態統計データ

【用語集】 ○婚姻率 ○離婚率

2. 世帯の動向

(1) 世帯数の推移

守口市の世帯数は年々増加しており、平成22年には65,129世帯となっています。これに対し、1世帯あたりの人員は減り続けており、平成2年の2.79人から平成22年には2.23人と20年間で0.56人減少しています。

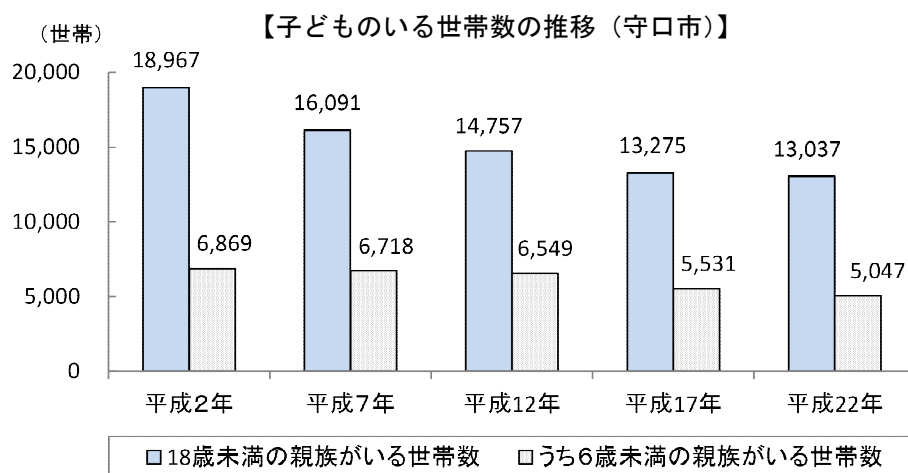


資料: 国勢調査

(2) 子どものいる世帯の状況

18歳未満の親族のいる世帯数は減少が続いており、平成22年は13,037世帯となっています。このうち6歳未満の親族のいる世帯数も同様に減少しており、平成22年は5,047世帯となっています。

1世帯あたりの子どもの平均数は、18歳未満の子どものいる世帯、6歳未満の子どものいる世帯いずれも、平成2年と比べると平成22年には減少傾向が続いています。

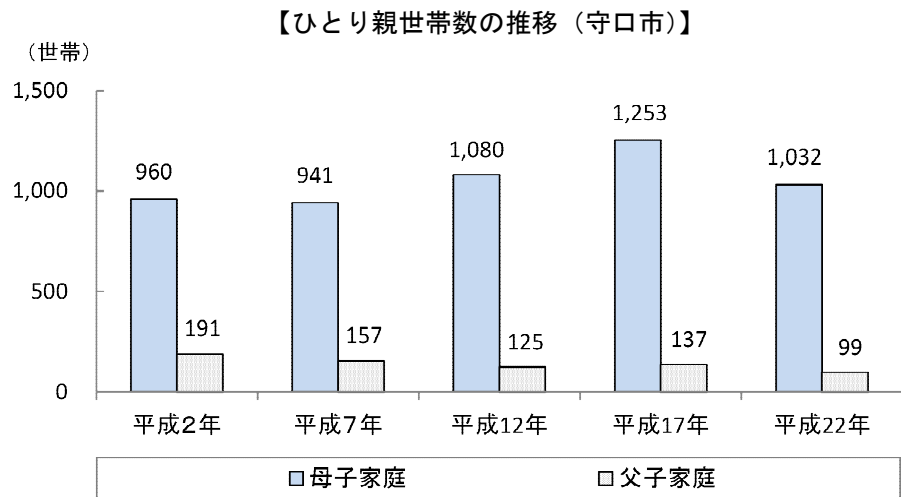


資料: 国勢調査

【用語集】 ○

(3) ひとり親世帯数の状況

守口市のひとり親世帯数をみると、母子世帯は平成17年に最も多く1,253世帯となったものの、その後減少し、平成22年には1,032世帯となっています。父子世帯は平成2年で191世帯であったのに対し、平成22年には99件と平成2年の半数程度となっています。



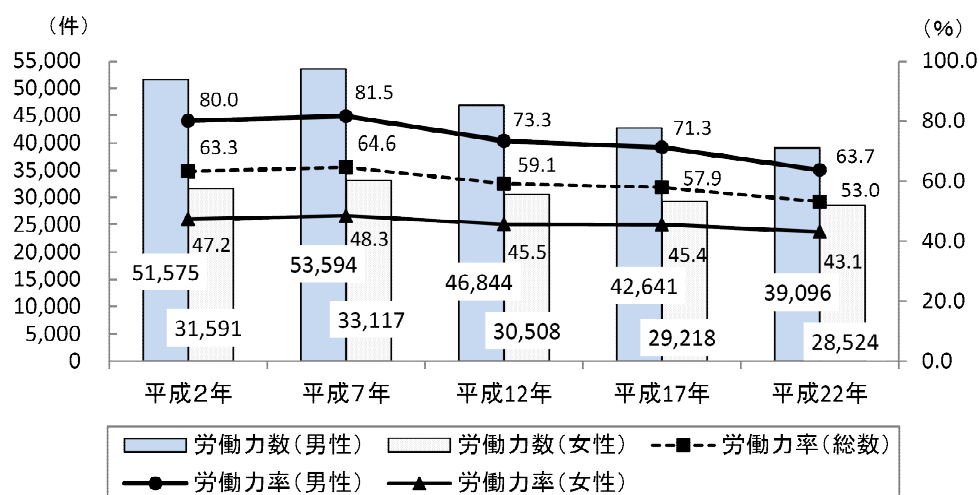
資料:国勢調査

3. 女性の就労状況

(1) 男女別労働力率*の推移

守口市の労働人口*は平成22年には67,620人で、このうち女性は28,524人です。労働力率は、男性の63.7%に対して女性は43.1%で、男女間の格差は20.6ポイントとなっています。

【男女別労働力率（守口市）】

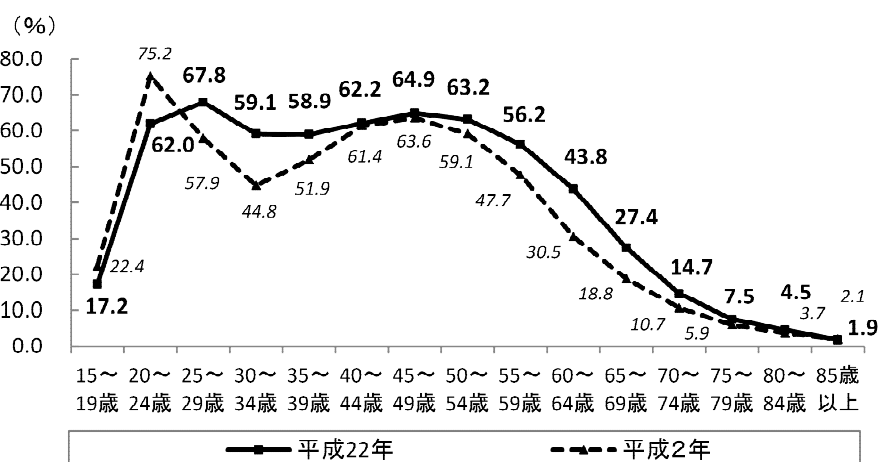


資料: 国勢調査

(2) 女性の年齢階層別労働力率

守口市の女性の労働力率を年齢階層別にみると、平成22年は平成2年に比べ、20～24歳の労働力が低下しているのに対し25歳以上は労働力率が上昇しており、いわゆるM字カーブはゆるやかになっています。

【女性の年齢別労働力率の推移（守口市）】



資料: 国勢調査

【用語集】 ○労働力率 ○労働人口

4. 行政サービス等の状況

(1) 幼稚園の状況

施設数は平成 23 年度までは 16 か所でしたが、平成 24 年度以降は 14 か所となっています。在園児数は減少傾向にあり、平成 26 年度では 1,700 人と、平成 21 年度から 211 人減少しています。

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
合 計	施設数	16 か所	16 か所	16 か所	14 か所	14 か所	14 か所
	定員	3,084 人	3,084 人	3,084 人	2,860 人	2,890 人	2,890 人
	在園児数	1,454 人	1,398 人	1,352 人	1,343 人	1,279 人	1,261 人
公 立 幼 稚 園	施設数	7 か所	7 か所	7 か所	5 か所	5 か所	5 か所
	対象児童	4・5歳児					
	定員	884 人	884 人	884 人	660 人	660 人	660 人
	在園児数	375 人	347 人	302 人	263 人	258 人	238 人
私 立 幼 稚 園	施設数	9 か所	9 か所	9 か所	9 か所	9 か所	9 か所
	対象児童	3～5歳児					
	定員	2,200 人	2,200 人	2,200 人	2,200 人	2,230 人	2,230 人
	在園児数 (市外居住者)	1,079 人 (457 人)	1,051 人 (462 人)	1,050 人 (485 人)	1,080 人 (475 人)	1,021 人 (454 人)	1,023 人 (439 人)

資料: 守口市統計(各年度5月1日現在)

(注) 私立幼稚園の在園児数は守口市内の入園者のみで、他市からの入園者は含みません

(2) 保育所(園)の状況

① 認可保育所(園)の状況

施設数は平成 21 年度以降も変わっていません。入所児童数は平成 21 年度から 23 年度にかけて増加傾向にありますが、その後減少し、平成 26 年度では 2,376 人となっています。

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
合 計	施設数	23 か所	23 か所	23 か所	23 か所	23 か所	23 か所
	対象児童	0～5歳児					
	定員	2,435 人	2,465 人	2,475 人	2,475 人	2,495 人	2,485 人
	入所児童数	2,364 人	2,398 人	2,403 人	2,430 人	2,427 人	2,376 人
公 立 保 育 所	施設数	12 か所	12 か所	12 か所	12 か所	12 か所	12 か所
	対象児童	0～5歳児					
	定員	1,290 人	1,290 人	1,290 人	1,290 人	1,290 人	1,290 人
	入所児童数	1,045 人	1,079 人	1,076 人	1,115 人	1,108 人	1,081 人
私 立 保 育 園	施設数	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所
	対象児童	0～5歳児					
	定員	1,145 人	1,175 人	1,185 人	1,185 人	1,205 人	1,195 人
	入所児童数	1,319 人	1,319 人	1,327 人	1,315 人	1,319 人	1,295 人

資料: 守口市統計(各年度4月1日現在)

【用語集】 ○

② 家庭保育所*（認可外保育施設）の状況

平成 21 年度から 25 年度にかけては、施設数 6 か所、定員 135 人となっていましたが、平成 26 年度には減少し、施設数 5 か所、定員 111 人となっています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
施設数	6 か所	6 か所	6 か所	6 か所	6 か所	5 か所
定員	135 人	135 人	135 人	135 人	135 人	111 人

資料：守口市統計（各年度4月1日現在）

③ 待機児童数*の状況

平成 21 年度から 23 年度にかけて増加傾向にありましたが、その後は横ばいの状態となっています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
待機児童数	22 人	32 人	46 人	45 人	47 人	45 人

資料：守口市統計（各年度4月1日現在）

（３）保育サービス等の状況

① 一時保育事業*の状況

平成 21 年度から 25 年度までは 11 か所で実施体制を確保していましたが、延べ利用人数は、平成 25 年度以降、短時間の一時保育事業を縮小した施設があったため全体として大きく減少しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
実施施設数	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所
延べ利用人数	3,538 人	3,556 人	2,417 人	3,463 人	998 人

資料：守口市統計

（注）延べ利用人数の中に、補助対象とならない施設の利用人数は含めていません

② 病後児保育事業*の状況

平成 21 年度から 24 年度までは 1 か所で実施していましたが、平成 25 年からは 2 か所で実施しています。延べ利用人数は平成 24 年度までは 50 人以下で推移してきましたが、平成 25 年度で大きく増加しています。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
実施施設数	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	2 か所
延べ利用人数	16 人	47 人	37 人	29 人	147 人

資料：守口市統計

【用語集】 ○家庭保育所 ○一時保育事業 ○病後児保育事業

③ 子育て支援センター事業の状況

子育て支援センターの延べ利用人数は平成 23 年度の 8,661 人をピークに減少傾向にありますが、平成 25 年度では 7,257 人と、平成 21 年度と比べ 561 人増加しています。また、あそびの広場の参加人数は増減を経て、平成 25 年度では 2,582 人となっています。

子育てに関する相談では、毎年度 100 件程度の相談があり、平成 25 年度では 92 件となっています。

子育てに関する情報の収集・提供を行っている「すこやかネット守口※」へのアクセス件数は平成 25 年度では 1 万件を超えました。

子育てに関する講座・講演会は毎年度 20 回前後開催されています。

また、子育てサークル出前講座については平成 25 年度で 24 回、サークル交流会については平成 25 年度で 4 回開催されています。

▲親や子どもたちの遊びと交流(子育て支援センター)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べ利用人数		6,696 人	6,696 人	8,661 人	7,301 人	7,257 人
あそびの広場	開設回数	22 回	28 回	31 回	39 回	34 回
	延べ参加人数	1,787 人	3,054 人	2,974 人	3,308 人	2,582 人

資料:守口市統計

▲子育てに関する相談

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べ相談件数	126 件	126 件	98 件	84 件	92 件

資料:守口市統計

▲子育てに関する情報の収集・提供(「すこやかネット守口」ホームページ)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べアクセス件数	9,162 件	9,162 件	7,537 件	9,038 件	10,142 件

資料:守口市統計

▲子育てに関する講座・講演会

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
開催回数	23 回	25 回	27 回	26 回	24 回
延べ参加人数	754 人	786 人	917 人	963 人	760 人
延べ保育児童	54 人	49 人	33 人	32 人	17 人

資料:守口市統計

▲子育てサークルへの支援・保育ボランティアの育成

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
サークル 出前講座※	実施回数	5 回	5 回	3 回	2 回	2 回
	延べ参加人数	187 人	142 人	76 人	75 人	99 人
サークル 交流会※	実施回数	5 回	2 回	7 回	4 回	4 回
	延べ参加サークル数	8	22	42	18	24
保育 ボランティア※	講座開催回数	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回
	登録者	159 人	168 人	82 人	101 人	221 人

資料:守口市統計

【用語集】 ○すこやかネット守口 ○サークル出前講座 ○サークル交流会 ○保育ボランティア

④ ファミリー・サポート・センター事業※の状況

延べ活動件数は平成23年度までは減少傾向にありましたが、平成24年度から増加しており、平成25年度では平成21年度以来再び2,000件を超えました。

会員数は年々増加傾向にあり、平成25年度会員数は421人となっています。

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べ活動件数		2,010 件	1,565 件	1,186 件	1,935 件	2,113 件
会員数	依頼会員	199 人	194 人	196 人	214 人	219 人
	協力会員	128 人	136 人	150 人	182 人	174 人
	両方会員	38 人	38 人	41 人	29 人	28 人
	合計	365 人	368 人	387 人	425 人	421 人

資料：守口市統計

（４）障害児通園施設の状況

守口市内の障害児通園施設は、平成23年度までは肢体不自由児通園施設「市立わかくさ園」と知的障害児通園施設「市立わかすぎ園」の2か所でしたが、平成24年度に統合し、「わかくさ・わかすぎ園」の1か所となっています。

平成26年度の在園児童数は44人となっています。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
施設数	2 か所	2 か所	2 か所	1 か所	1 か所	1 か所
対象児童	0～5歳の肢体不自由児・知的障害児					
定員	90 人			80 人		
通園児童	39 人	51 人	48 人	54 人	57 人	44 人

資料：守口市統計（各年度4月1日現在）

【用語集】 ○ファミリー・サポート・センター事業

(5) 母子保健事業の状況

妊婦、乳幼児健康診査については、下記の7種の健診が実施されており、対象者の7割以上が受診しています。

各種教室や相談事業にも取り組んでいます。また、各種予防接種も実施しています。

			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
健診	妊婦一般健診		受診率	88.7%	92.0%	89.1%	97.2%	93.7%
	乳児一般健診		受診率	79.2%	76.4%	78.0%	75.2%	75.6%
	4ヶ月児健診		受診率	95.3%	96.6%	95.9%	94.7%	96.4%
	乳児後期健診		受診率	83.7%	80.9%	85.7%	83.3%	77.6%
	1歳6ヶ月健診		受診率	91.7%	93.2%	94.9%	91.7%	92.1%
	2歳児歯科健診		受診率	84.8%	87.0%	85.4%	87.7%	86.2%
	3歳6ヶ月健診		受診率	75.3%	77.5%	77.3%	79.8%	80.4%
教室・相談	両親教室		参加者数	373 人	328 人	300 人	306 人	279 人
	新生児訪問指導		参加者数	421 人	435 人	447 人	468 人	463 人
	離乳食講習会		参加者数	311 人	315 人	247 人	280 人	262 人
	1歳児相談		参加者数	104 人	70 人	55 人	60 人	93 人
	子育て教室		参加者数	2,684 人	1,491 人	1,113 人	1,157 人	1,149 人
予防接種	BCG		接種者数	1,151 人	1,074 人	966 人	944 人	892 人
	ポリオ ※1		接種者数	2,240 人	2,095 人	1,495 人	3,986 人※1	2,265 人
	三種混合	幼児期※2	接種者数	4,400 人	4,471 人	4,286 人	3,823 人	4,460 人※2
		小学生	接種者数	226 人	377 人	400 人	436 人	336 人
	麻疹・風疹 1・2期		接種者数	1,891 人	2,001 人	1,894 人	2,094 人	1,917 人
	麻疹・風疹 3・4期 ※3		接種者数	1,860 人	2,204 人	2,234 人	2,154 人	－ ※3
	日本脳炎		接種者数	1,159 人	3,444 人	3,886 人	4,053 人	3,626 人

資料：守口市統計

※1 平成24年度より生ワクチンから不活化ワクチンに変わりました

※2 ポリオ不活化ワクチンを含む4種混合ワクチンの接種を含みます

※3 経過措置として実施していました麻疹・風疹3・4期は、平成24年度で終了しました

(6) 小学校の状況

① 学校数と児童数

平成 25 年度までは市内には公立小学校が 18 校ありましたが、平成 26 年度 5 月 1 日現在では 17 校となっています。児童数は平成 21 年度以降、年々減少傾向にあり、平成 26 年度では 6,576 人となっています。

平成 26 年度に「滝井小学校」と「春日小学校」が統合し、「さつき小学校」となったため、学校数は 17 校となりました。

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
学校数		18 校	18 校	18 校	18 校	18 校	17 校
児童数	総数	7,981 人	7,754 人	7,382 人	7,060 人	6,825 人	6,576 人
	1 学年	1,166 人	1,161 人	1,103 人	1,081 人	1,082 人	1,035 人
	2 学年	1,268 人	1,168 人	1,156 人	1,097 人	1,073 人	1,070 人
	3 学年	1,303 人	1,266 人	1,166 人	1,148 人	1,098 人	1,063 人
	4 学年	1,371 人	1,308 人	1,274 人	1,168 人	1,138 人	1,093 人
	5 学年	1,463 人	1,388 人	1,302 人	1,269 人	1,171 人	1,139 人
	6 学年	1,410 人	1,463 人	1,381 人	1,297 人	1,263 人	1,176 人

資料：守口市統計（各年度 5 月 1 日現在）

② もりぐち児童クラブの状況

もりぐち児童クラブには、登録児童室と入会児童室の 2 つの区分があります。

登録児童室の利用者累計は、平成 25 年度で 162,621 人となっており、平成 21 年度の 163,322 人より減少しています。

入会児童室の入会者数は、平成 22 年度以降増加傾向にあり、平成 26 年度で 729 人となっており、登録率（入会者数 ÷ 1 ～ 3 年在学児童数）についても年々高くなっています。

もりぐち児童クラブは守口市内全小学校で実施しています。

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
開設か所数		18 か所	18 か所	18 か所	18 か所	18 か所	17 か所
在学児童数	1 ～ 6 年	7,981 人	7,752 人	7,382 人	7,060 人	6,825 人	6,576 人
	1 ～ 3 年	3,737 人	3,595 人	3,425 人	3,326 人	3,253 人	3,168 人
登録児童室	登録者数	3,690 人	3,647 人	3,497 人	3,346 人	3,315 人	3,107 人
	利用者累計	163,322 人	163,921 人	159,977 人	160,560 人	162,621 人	—
入会児童室	入会者数	666 人	661 人	682 人	697 人	704 人	729 人
	登録率	17.8%	18.4%	19.9%	21.0%	21.6%	23.0%

資料：守口市統計（各年度 3 月 1 日現在（在学児童数は 5 月 1 日現在））

登録児童室：1 ～ 6 年生の児童および保護者が同伴する 3 歳以上の幼児を対象

入会児童室：1 ～ 3 年生の児童で、放課後など保護者が就労または疾病その他の事由（月 15 日以上かつ、その状態が 3 か月以上続く）で保護育成することができない児童を対象

【用語集】 ○

③ 不登校児童数、いじめの国への報告件数

不登校児童数は、平成 23 年度の 37 人が最も多く、その後減少しましたが、平成 25 年度は再び増加に転じ、30 人となっています。

いじめの国への報告件数については、平成 24 年度の 9 件が最も多くなっており、平成 25 年度では 4 件となっています。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
不登校児童数	22 人	22 人	37 人	17 人	30 人
いじめの国への報告件数	4 件	5 件	6 件	9 件	4 件

資料:文科省「児童生徒の問題行動等状況調査」への報告

(7) 小学生の安全に関する状況

① 交通事故の被害件数

被害件数は平成 22 年度、23 年度で 10 件と最も多く、平成 25 年度では 5 件となっています。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
交通事故被害件数	5 件	10 件	10 件	7 件	5 件

資料:小中学校報告書

② 恐喝・脅し・痴漢の被害件数

被害件数は平成 21 年度をピークに、減少となっています。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
恐喝・脅し・痴漢の被害件数	22 件	5 件	10 件	8 件	8 件

資料:小中学校報告書

(8) 子どもの虐待等の状況

① 平成 25 年度児童虐待認知件数

小学生までの子どもに対する虐待の内訳を見ると、「ネグレクト※」が 131 件と最も多く、次いで「身体的虐待」が 38 件、「心理的虐待」が 19 件の順となっています。

	身体的虐待	心理的虐待	ネグレクト	性的虐待	合計
0～3歳	9 件	3 件	57 件	0 件	69 件
4歳～就学前	14 件	8 件	38 件	1 件	61 件
小学生	15 件	8 件	36 件	0 件	59 件
合計	38 件	19 件	131 件	1 件	189 件

② 家庭児童相談室への相談件数

相談件数は平成 24 年度に 500 件を超え、平成 25 年度では 573 件となっています。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
相談件数	354 件	474 件	407 件	522 件	573 件

資料:守口市児童課資料

【用語集】 ○ネグレクト

5. ニーズ調査からみた守口市の子育ての状況

(1) 調査の概要

① 調査の目的

子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）第 61 条に基づく新制度の開始を控え、子ども・子育てに関する実態とニーズを把握し、子ども・子育て支援事業計画策定の基礎資料とすることを目的として就学前児童及び就学後児童の保護者を対象に調査を行いました。

② 調査設計

調査対象

種類	調査方法	
就学前児童	守口市在住の就学前児童の保護者（①+②+③）	4,387 人
	① 守口市在住の私立・公立幼稚園に通う児童の保護者	1,229 人
	② 守口市在住の民間・公立保育園に通う児童の保護者	1,948 人
	③ 守口市在住の①②以外の就学前児童の保護者	1,210 人
就学後児童	守口市在住の就学後児童の保護者	1,000 人

調査期間

種類	調査期間
就学前児童	平成 26 年 1 月 10 日（金）～平成 26 年 1 月 22 日（火）
就学後児童	

調査方法

種類	調査方法	
就学前児童	① 守口市在住の私立・公立幼稚園に通う児童の保護者	直接配布・ 直接回収
	② 守口市在住の民間・公立保育園に通う児童の保護者	
	③ 守口市在住の①②以外の就学前児童の保護者	郵送配布・ 郵送回収
就学後児童	郵送配布・ 郵送回収	

③ 回収結果

種類	配布数	回収数	うち		回収率	有効回収数	有効回収率
			無効票	締切後着			
就学前児童	4,387 件	2,824 件	4 件	3 件	64.4%	2,817 件	64.2%
① 幼稚園に通う児童の保護者	1,229 件	1,021 件	1 件	0 件	83.1%	1,020 件	83.0%
② 保育園に通う児童の保護者	1,948 件	1,329 件	3 件	1 件	68.2%	1,325 件	68.0%
③ ①②以外の就学前児童の保護者	1,210 件	474 件	0 件	2 件	39.2%	472 件	39.0%
就学後児童	1,000 件	394 件	0 件	4 件	39.4%	390 件	39.0%
就学前児童 就学後児童 合計	5,387 件	3,218 件	4 件	7 件	59.7%	3,207 件	59.5%

④ 結果の見方

- ・ 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を上回る。なお、本文中、表やグラフに次のような表示がある場合、複数回答を依頼した質問である。
MA%（Multiple Answer）＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- ・ 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して 0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記している場合がある。
- ・ 回答者数（n）が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることは難しいので、おおよその回答の傾向をみることになる。
- ・ グラフにおいて、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

⑤ 前回調査との比較

今回の調査項目のうち、次世代育成支援後期行動計画の策定に際して平成 21 年度に実施したニーズ調査と同一の項目については、当該調査結果も合わせて表示している。

（２）回答者の属性

①回答者

【就学前児童】

調査数	2,817	100.0%
お母さん	2,664	94.6%
お父さん	132	4.7%
その他	15	0.5%
無回答	6	0.2%

【就学後児童】

調査数	390	100.0%
お母さん	355	91.1%
お父さん	31	7.9%
その他	3	0.8%
無回答	1	0.3%

②居住エリア

【就学前児童】

調査数	2,817	100.0%
東部エリア	1,087	38.6%
中部エリア	750	26.6%
南部エリア	944	33.5%
太子橋小学校	12	0.4%
無回答	24	0.9%

【就学後児童】

調査数	390	100.0%
東部エリア	141	36.2%
中部エリア	83	21.3%
南部エリア	164	42.1%
太子橋小学校	—	—
無回答	2	0.5%

③子どもの年齢

【就学前児童】

調査数	2,817	100.0%
0歳	344	12.2%
1歳	346	12.3%
2歳	337	12.0%
3歳	543	19.3%
4歳	627	22.3%
5歳	562	20.0%
無回答	58	2.1%

【就学後児童】

調査数	390	100.0%
小学1年生（6歳）	49	12.6%
小学2年生（7歳）	69	17.7%
小学3年生（8歳）	64	16.4%
小学4年生（9歳）	63	16.2%
小学5年生（10歳）	70	17.9%
小学6年生（11歳）	62	15.9%
無回答	13	3.3%

④子どもの同居状況（複数回答あり）

【就学前児童】

調査数	2,817	100.0%
お父さんとお母さんと一緒に住んでいる	2,474	87.8%
お父さんと一緒に住んでいる（父子家庭）	24	0.9%
お母さんと一緒に住んでいる（母子家庭）	223	7.9%
おじいちゃんと一緒に住んでいる	147	5.2%
おばあちゃんと一緒に住んでいる	252	8.9%
おじいちゃんが近所に住んでいる	932	33.1%
おばあちゃんが近所に住んでいる	1,155	41.0%
その他	77	2.7%
無回答	15	0.5%

【就学後児童】

調査数	390	100.0%
お父さんとお母さんと一緒に住んでいる	340	87.2%
お父さんと一緒に住んでいる（父子家庭）	6	1.5%
お母さんと一緒に住んでいる（母子家庭）	38	9.7%
おじいちゃんと一緒に住んでいる	30	7.7%
おばあちゃんと一緒に住んでいる	54	13.8%
おじいちゃんが近所に住んでいる	102	26.2%
おばあちゃんが近所に住んでいる	144	36.9%
その他	13	3.3%
無回答	2	0.5%

(3) 保護者の就労状況

①母親の就労状況

【就学前児童】

調査数	2,793	100.0%
フルタイムで就労	674	24.1%
フルタイムで就労（産休・育休・介護休業中）	110	3.9%
パート・アルバイトなどで就労	862	30.9%
パート・アルバイトなどで就労（産休・育休・介護休業中）	63	2.3%
以前は働いていたが、今は就労していない	871	31.2%
これまで就労したことがない	172	6.2%
無回答	41	1.5%

【就学後児童】

調査数	384	100.0%
フルタイムで就労	95	24.7%
フルタイムで就労（産休・育休・介護休業中）	2	0.5%
パート・アルバイトなどで就労	155	40.4%
パート・アルバイトなどで就労（産休・育休・介護休業中）	4	1.0%
以前は働いていたが、今は就労していない	97	25.3%
これまで就労したことがない	30	7.8%
無回答	1	0.3%

②母親の就労希望

【就学前児童】

調査数	925	100.0%
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	53	5.7%
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	242	26.2%
パート・アルバイトなどで働き続けることを希望	460	49.7%
パート・アルバイトなどをやめて子育てや家事に専念したい	60	6.5%
無回答	110	11.9%

【就学後児童】

調査数	159	100.0%
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	9	5.7%
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	40	25.2%
パート・アルバイトなどで働き続けることを希望	99	62.3%
パート・アルバイトなどをやめて子育てや家事に専念したい	2	1.3%
無回答	9	5.7%

③父親の就労状況

【就学前児童】

調査数	2,594	100.0%
フルタイムで就労	2,482	95.7%
フルタイムで就労（育休・介護休業中）	6	0.2%
パート・アルバイトなどで就労	34	1.3%
パート・アルバイトなどで就労（育休・介護休業中）	-	-
以前は働いていたが、今は就労していない	37	1.4%
これまで就労したことがない	-	-
無回答	35	1.3%

【就学後児童】

調査数	352	100.0%
フルタイムで就労	343	97.4%
フルタイムで就労（育休・介護休業中）	2	0.6%
パート・アルバイトなどで就労	2	0.6%
パート・アルバイトなどで就労（育休・介護休業中）	-	-
以前は働いていたが、今は就労していない	3	0.9%
これまで就労したことがない	1	0.3%
無回答	1	0.3%

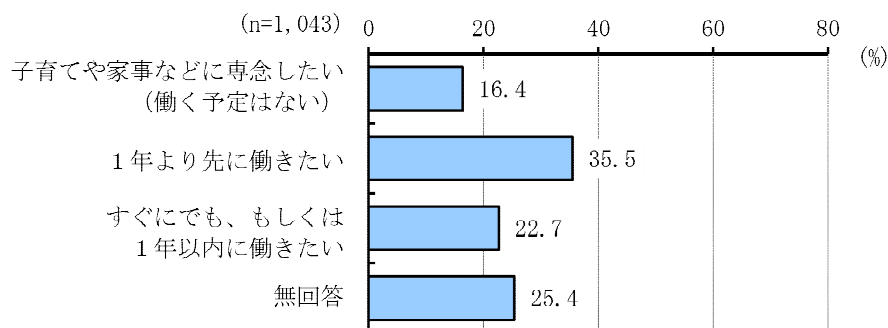
④ 母親の就労意向

現在就労していない母親の今後の就労希望は、就学前児童、就学後児童とも約6割が「働きたい」としてありますが、「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」の割合は就学後児童で42.5%と高くなっています。

就学前児童、就学後児童とも、一番下の子どもが「6歳以上」になったら働きたいとする割合が最も高く、特に就学後児童では約7割と高くなっています。また、1年以内に就労したい人の希望する就労形態は、就学前児童、就学後児童とも「パートタイム・アルバイトなど」が最も多く、就学後児童では94.4%とほとんどを占めています。

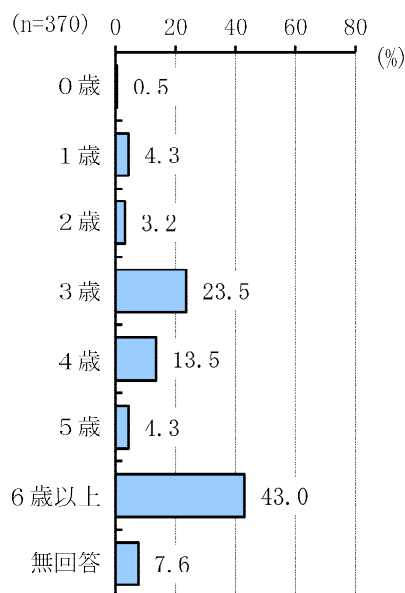
【就学前児童調査】

※母親が就労していない人のみ回答
(就労意向)



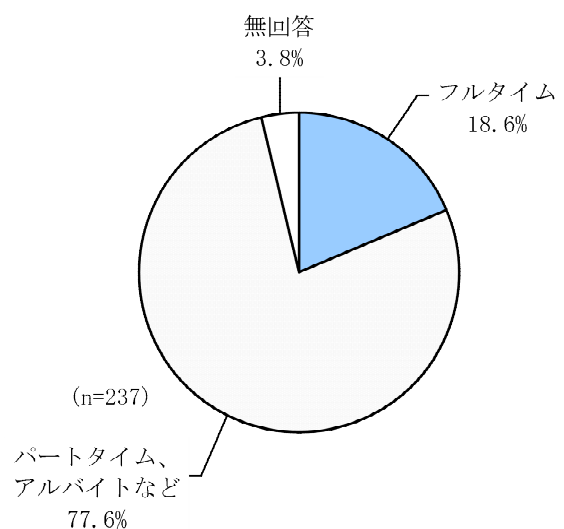
(一番下の子どもが何歳頃に働きたいか)

※1年以上先に就労したい人のみ

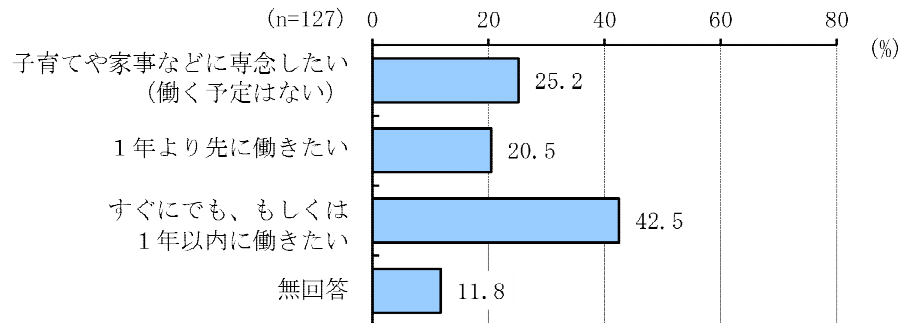


(希望する就労形態)

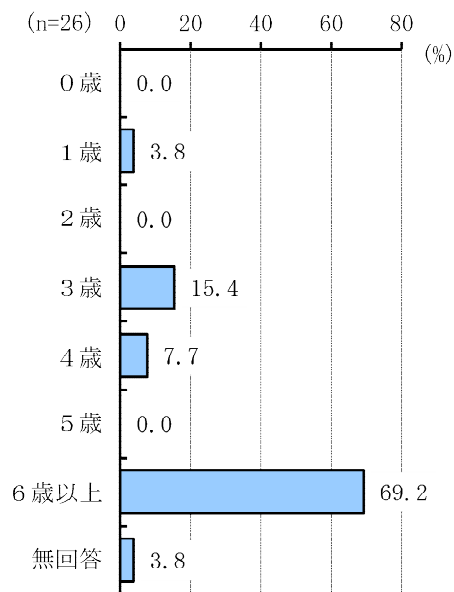
※1年以内に就労したい人のみ



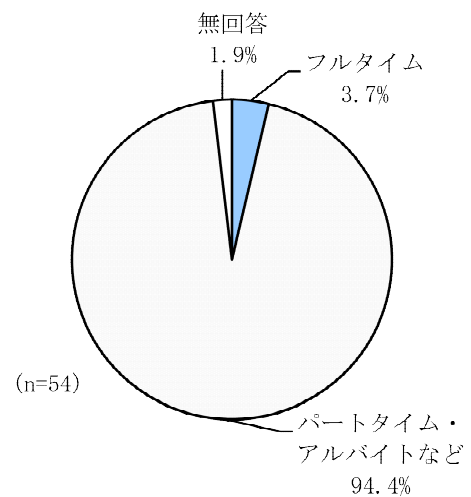
【就学後児童調査】
 ※母親が就労していない人のみ回答
 (就労意向)



(一番下の子どもが何歳頃に働きたいか)
 ※1年以上先に就労したい人のみ



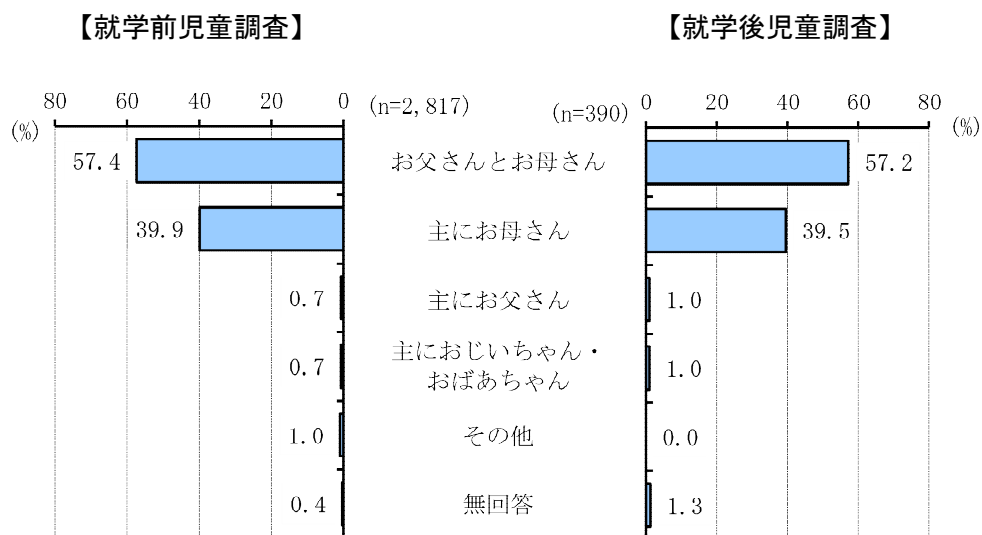
(希望する就労形態)
 ※1年以内に就労したい人のみ



(4) 子育ての状況

① 主に子育てを行っている人

就学前児童、就学後児童とも「お父さんとお母さん」が5割台で最も多く、次いで「主にお母さん」が4割となっています。

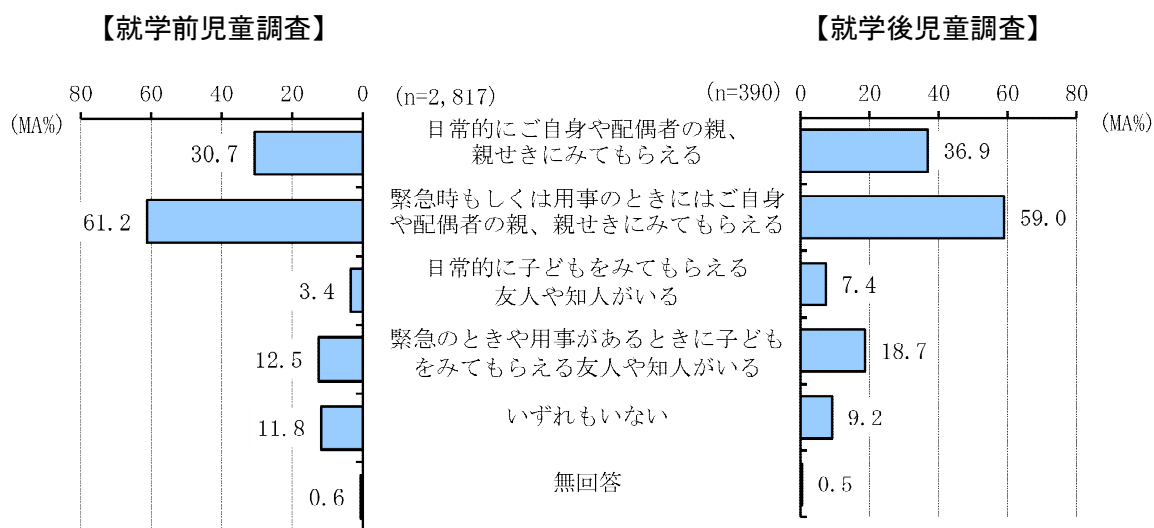


② 子どもをみてもらえる親族や友人・知人の有無

就学前児童、就学後児童とも「緊急時もしくは用事のあるときにはご自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が約6割で最も多くなっています。

また就学前児童、就学後児童とも「いずれもない」が約1割となっています。

友人や知人に関しては、「日常的」あるいは「緊急のときや用事があるときに子どもをみてもらえる」割合が、就学前児童よりも就学後児童の方が高くなっています。

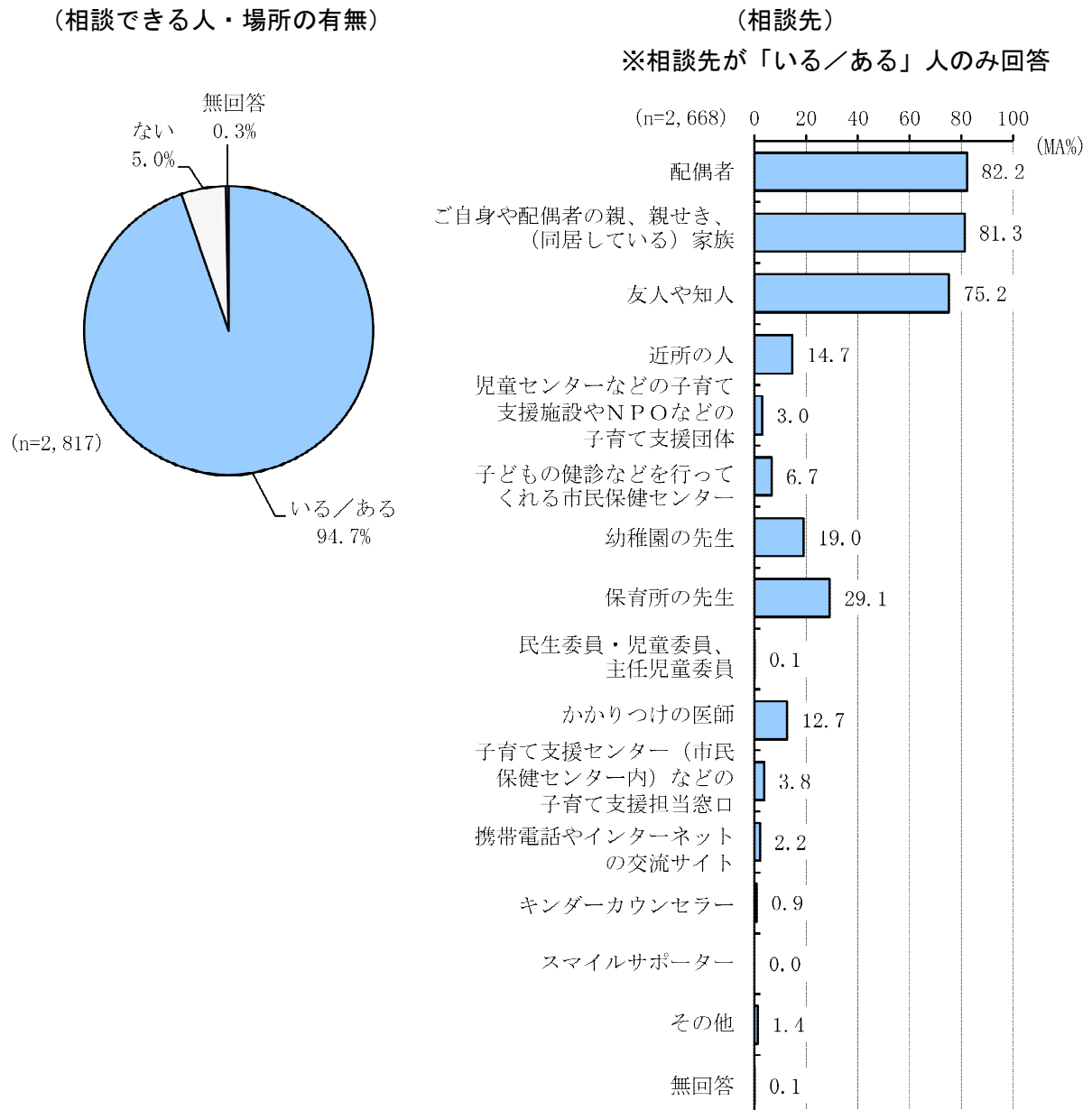


③ 子育てに関する相談相手・場所の有無、相談先

就学前児童、就学後児童とも「いる／ある」が9割を超えています。

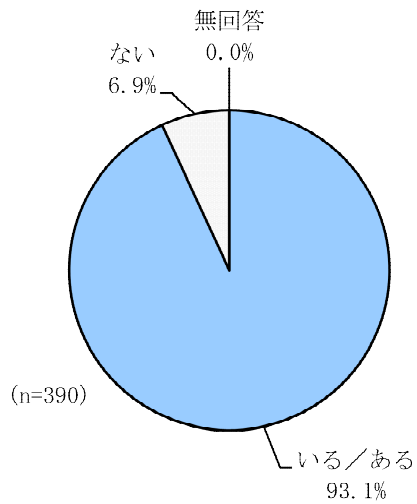
相談先については、就学前児童、就学後児童とも「配偶者」「ご自身や配偶者の親、親せき、（同居している）家族」「友人や知人」の3つが多く、「配偶者」「ご自身や配偶者の親、親せき、（同居している）家族」の割合は就学前児童よりも就学後児童の方が1割ほど低くなっています。

【就学前児童調査】



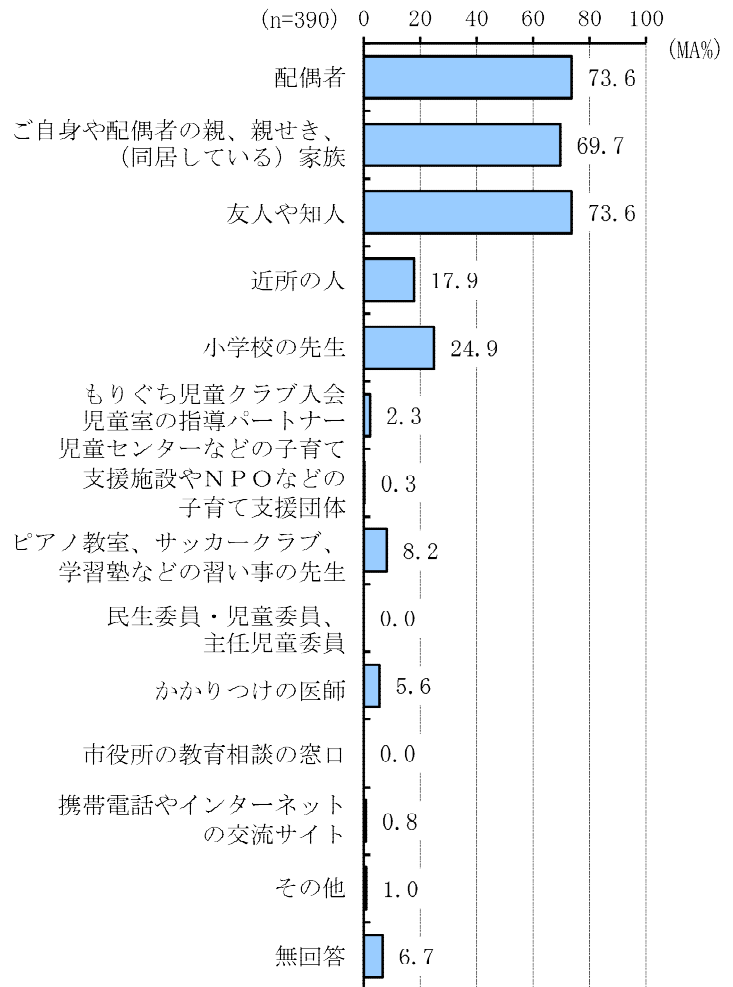
【就学後児童調査】

(相談できる人・場所の有無)



(相談先)

※相談先が「いる／ある」人のみ回答



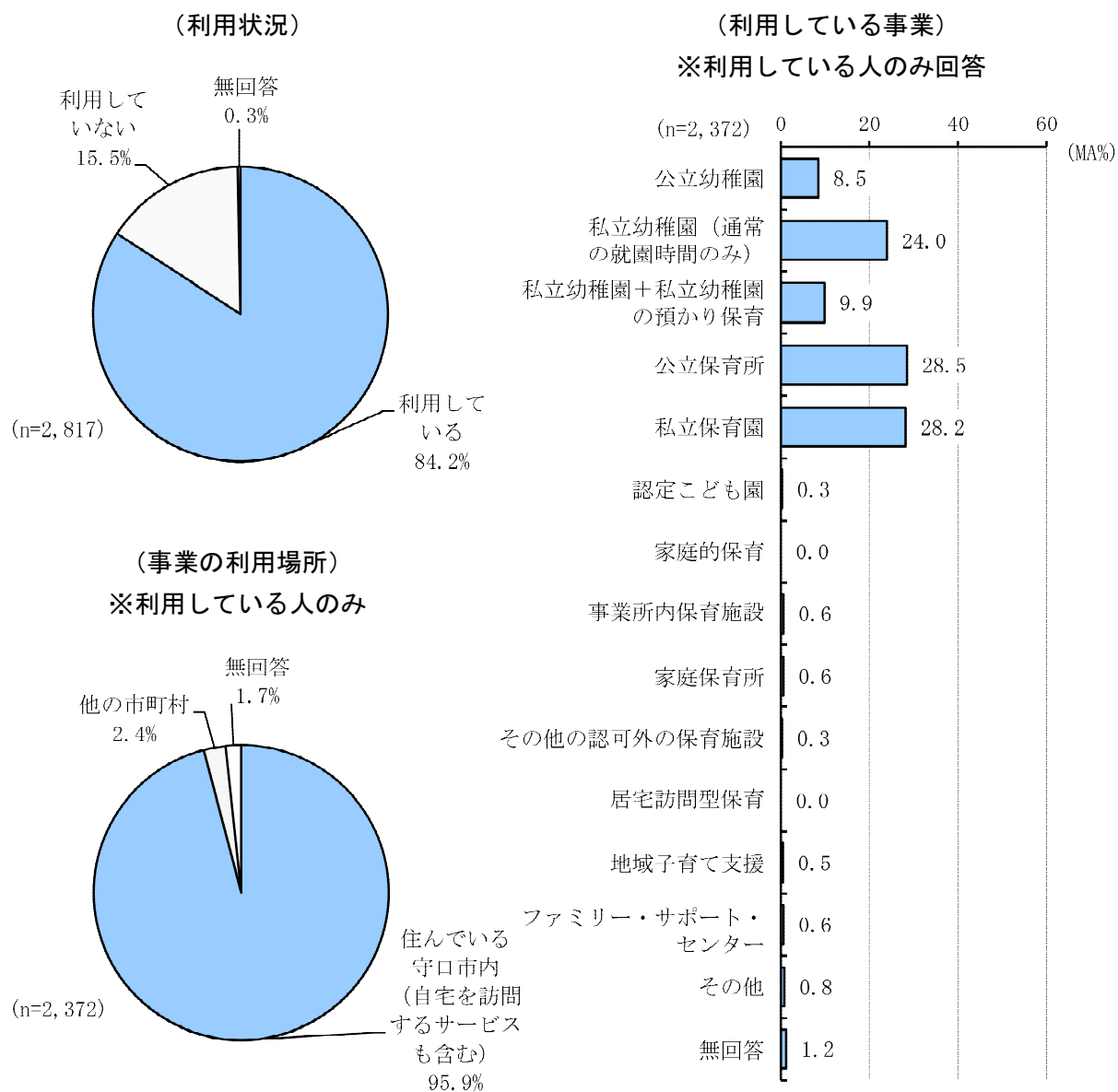
(4) 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望

① 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

利用状況は84.2%と大半の人が何らかの教育・保育事業を利用しています。

利用している事業の内容は「公立保育所」「私立保育園」「私立幼稚園」が2割台と多く、事業の利用場所はほとんどが守口市内となっています。

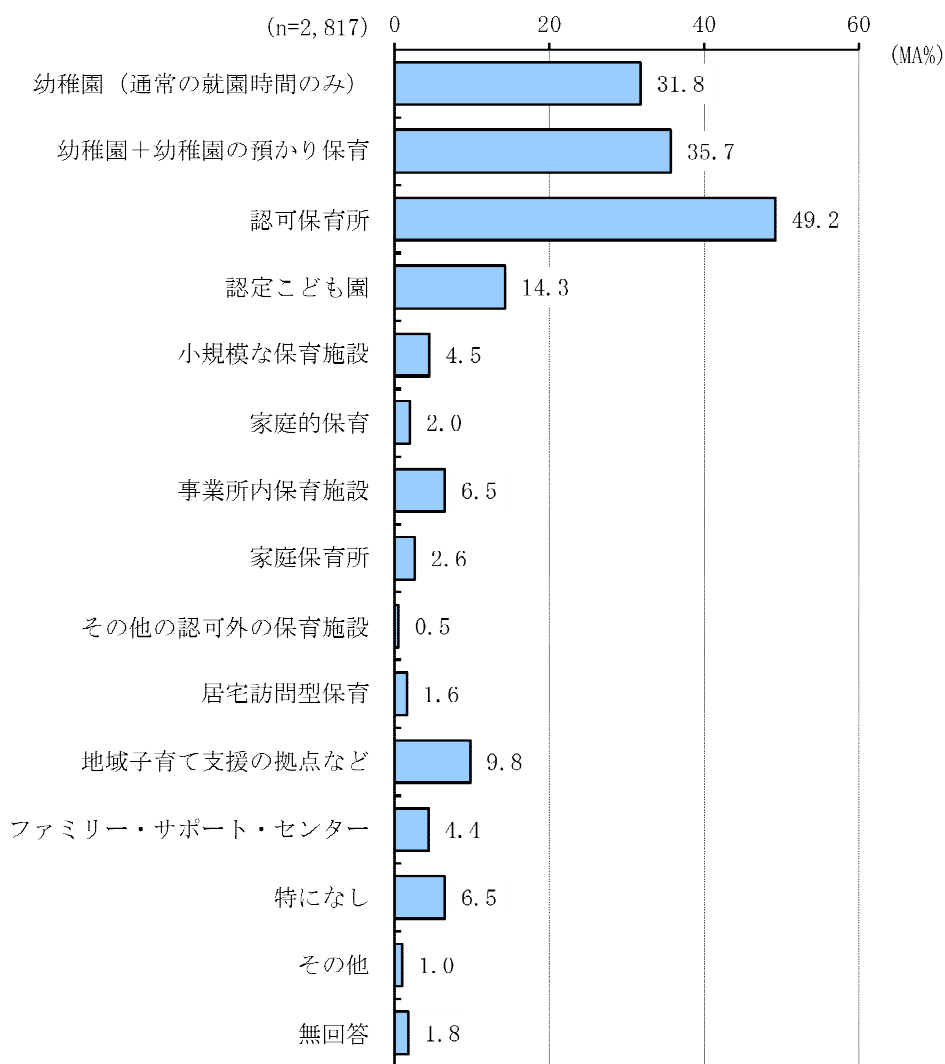
【就学前児童調査】



② 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

「認可保育所」が49.2%で最も多く、次いで「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」(35.7%)、「幼稚園（通常の就園時間のみ）」(31.8%)の順となっています。

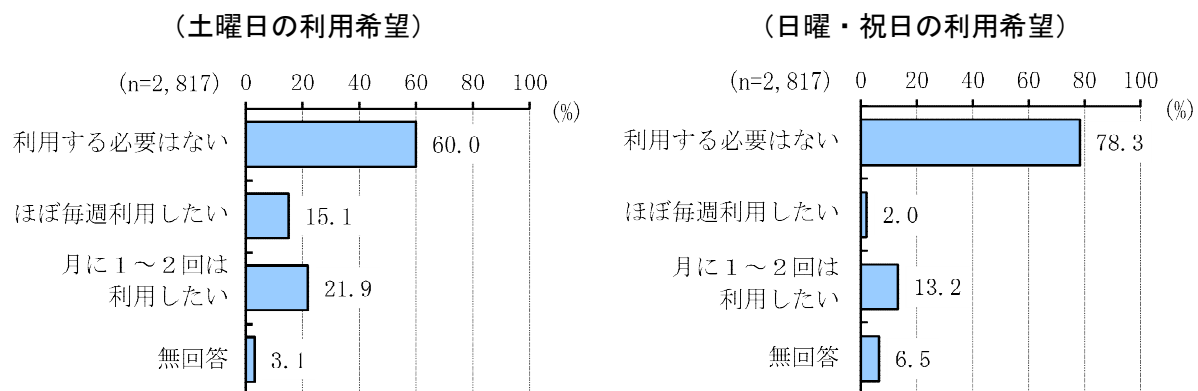
【就学前児童調査】



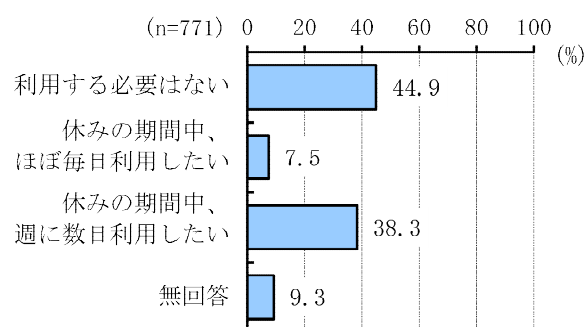
③ 土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

利用希望は土曜日が 37.0%、日曜・祝日が 15.2%、長期休暇中が 45.8%となっています。

【就学前児童調査】



(長期休暇中の利用希望) ※幼稚園を利用している人のみ回答



(5) もりぐち児童クラブ入会児童室について

① 就学後児童のもりぐち児童クラブ入会児童室の利用状況と利用希望

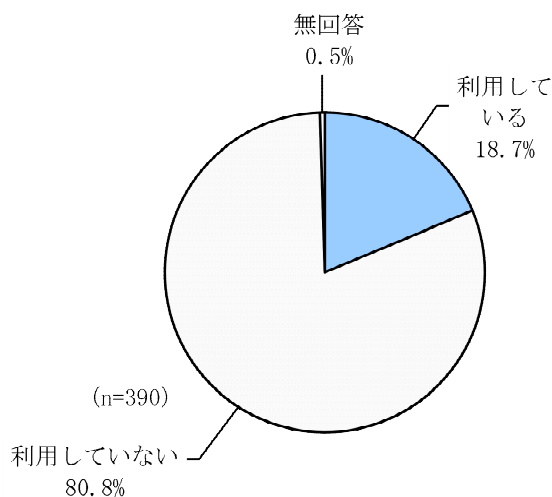
利用状況は、2割弱が「利用している」となっています。

利用している理由としては、「保護者が働いている」が7割台と多くなっています。

また、利用者の利用希望は、土曜日が35.6%、日曜・祝日が24.7%となっています。

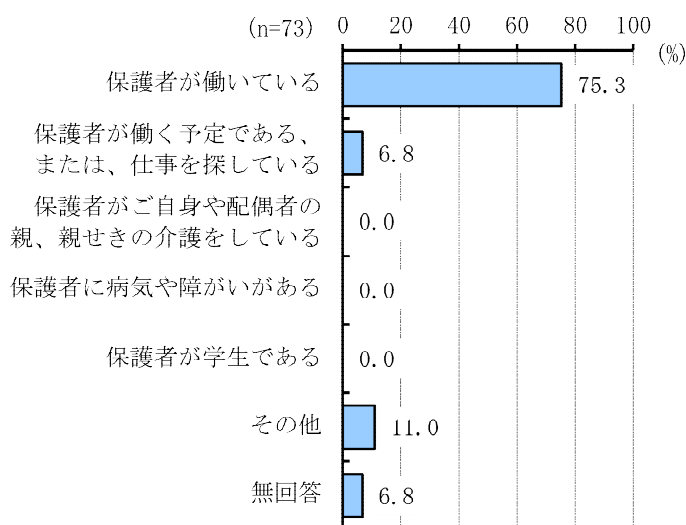
【就学後児童調査】

(利用状況)



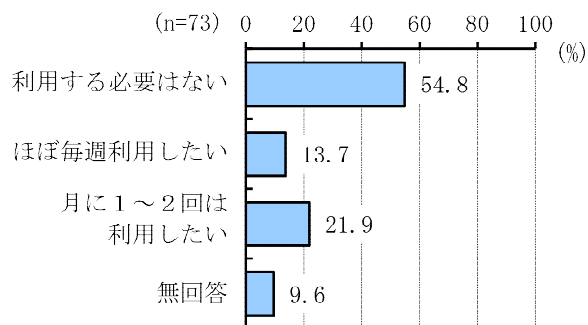
(利用している理由)

※利用している人のみ回答



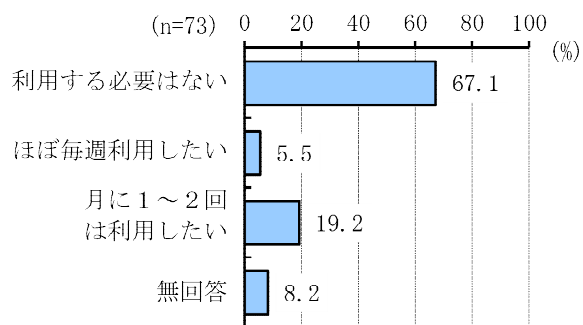
(土曜日の利用希望)

※利用している人のみ回答



(日曜・祝日の利用希望)

※利用している人のみ回答

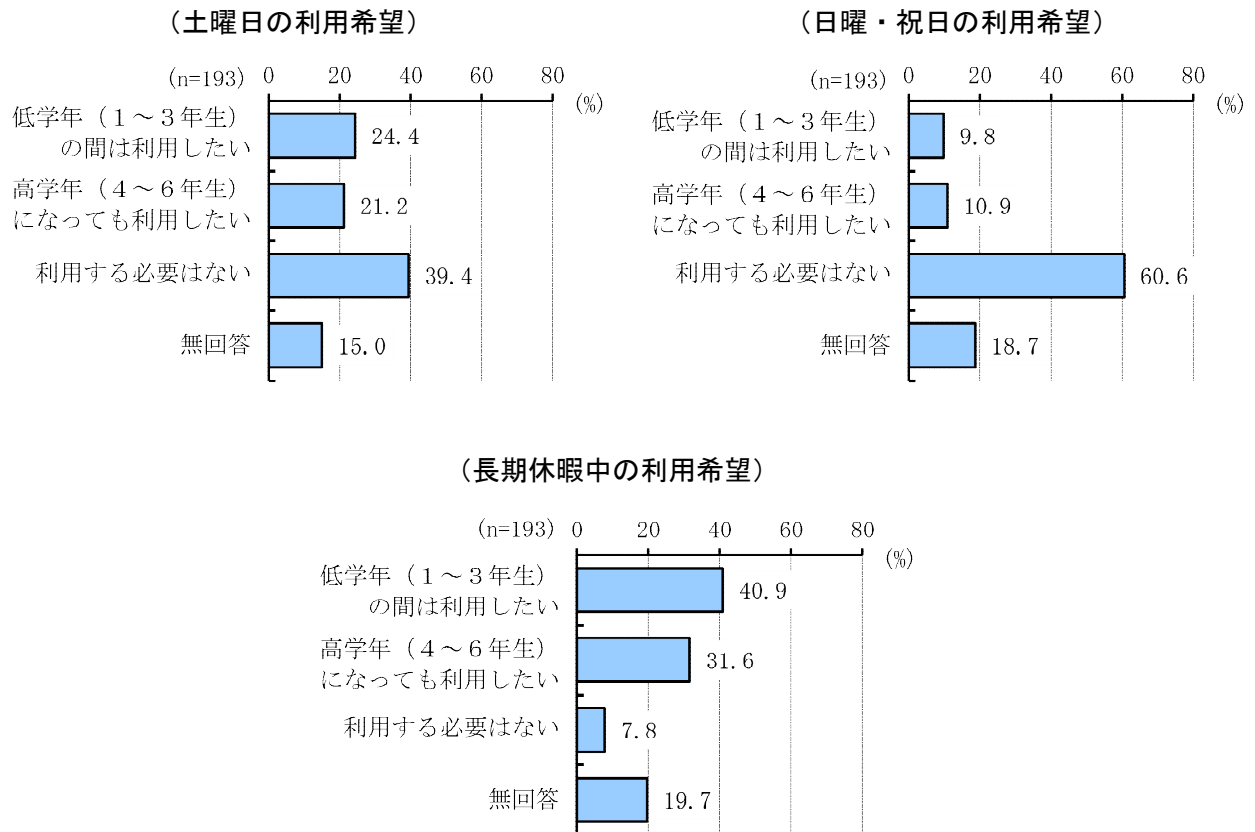


② 就学前児童のもりぐち児童クラブ入会児童室の利用希望

利用希望は、土曜日が低学年、高学年とも2割台、日曜・祝日が低学年、高学年とも約1割、長期休暇中では低学年が約4割、高学年が約3割となっています。

【就学前児童調査】

※就学後にもりぐち児童クラブ入会児童室を利用したい人のみ回答



(6) 病児・病後児保育について

① この1年間に子どもが病気・ケガで教育・保育事業や学校を休んだ経験の有無とその対応

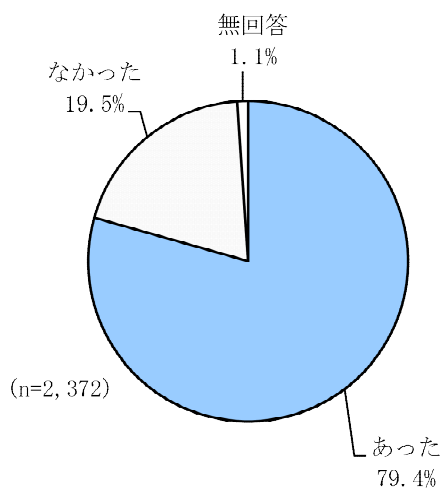
休んだ経験は、就学前児童では「あった」が8割であったが、就学後児童では「あった」が6割台となっています。

休んだ場合の対応は、「母親が仕事を休んだ」が就学前児童、就学後児童とも最も多く、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」「働いていない父親か母親が子どもをみた」が多くなっています。

また「仕方なく子どもだけで留守させた」が就学後児童では、14.2%となっています。

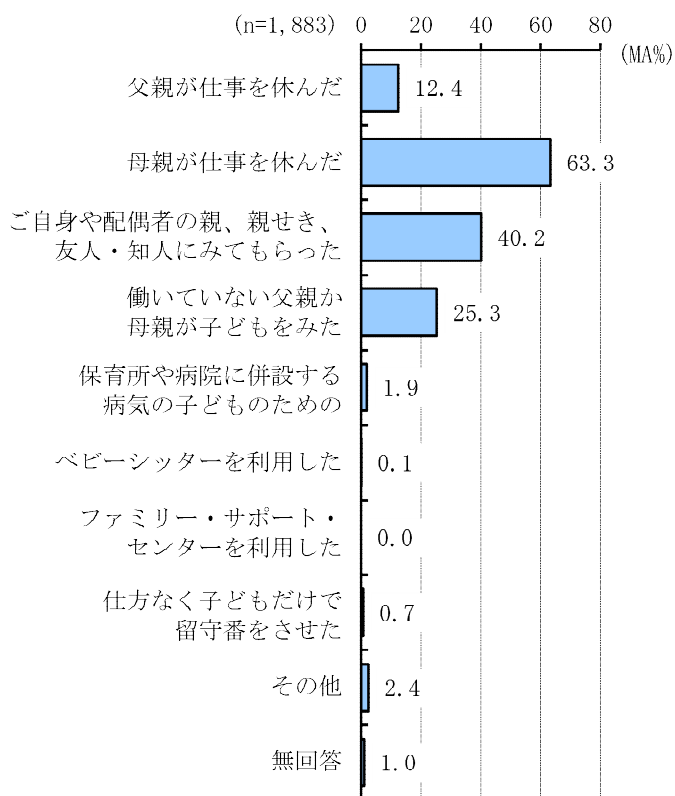
【就学前児童調査】

(休んだ経験の有無)



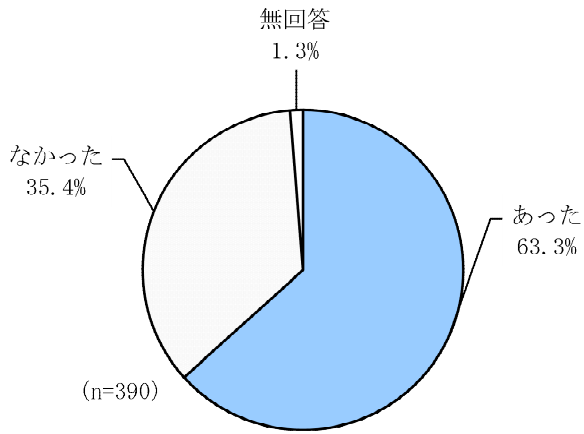
(休んだ場合の対応)

※休んだことがある人のみ回答



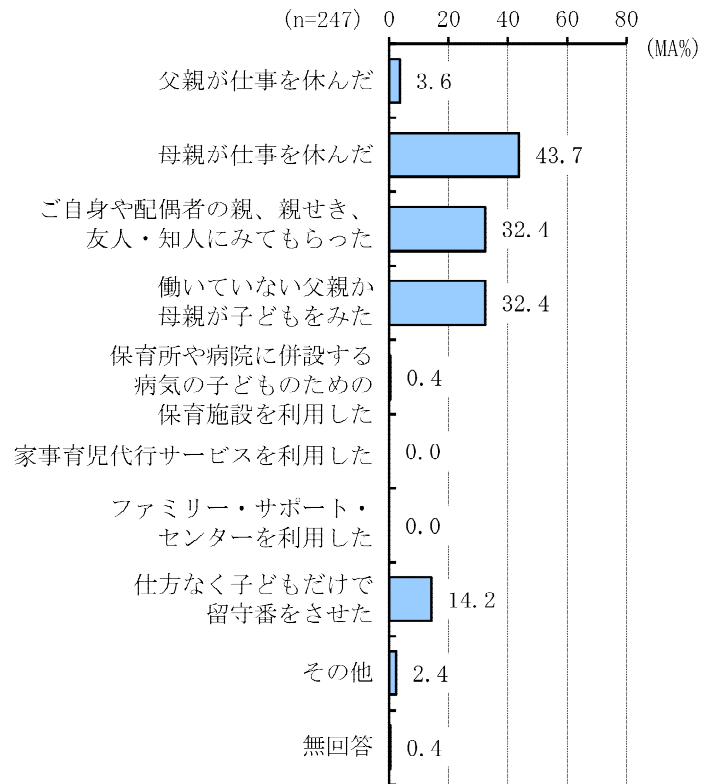
【就学後児童調査】

(休んだ経験の有無)



(休んだ場合の対応)

※休んだことがある人のみ回答

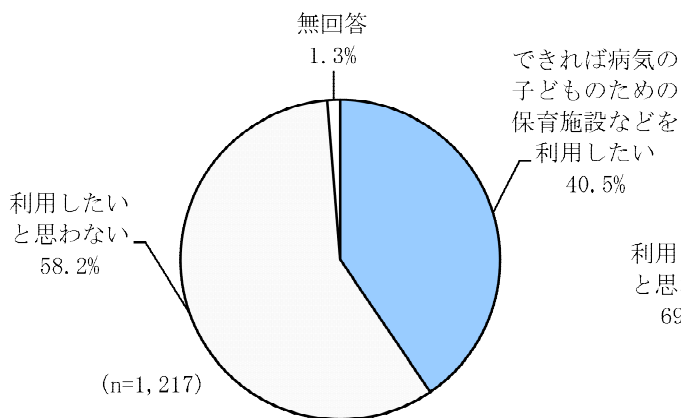


② 病児・病後児のための保育施設等の利用希望

「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」の割合は就学前児童で4割、就学後児童で2割台となっています。

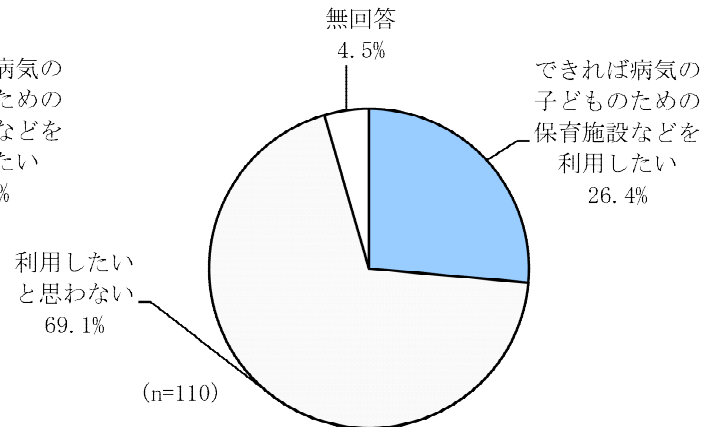
【就学前児童調査】

※父親もしくは母親が休んだ人のみ回答



【就学後児童調査】

※父親もしくは母親が休んだ人のみ回答

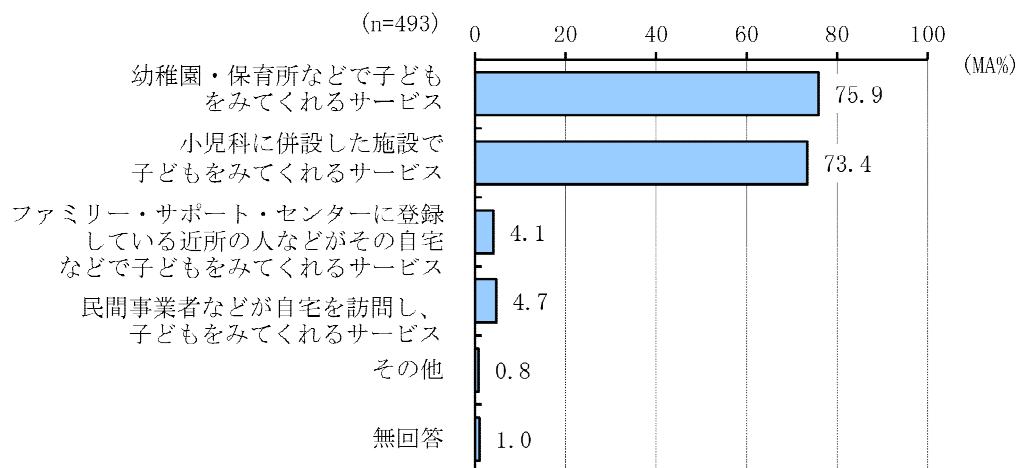


③ 病児・病後児保育事業として望ましい形態

「幼稚園・保育所などで子どもをみてくれるサービス」および「小児科に併設した施設で子どもをみてくれるサービス」が7割台と多くなっています。

【就学前児童調査】

※父親もしくは母親が休んだ人のみ回答

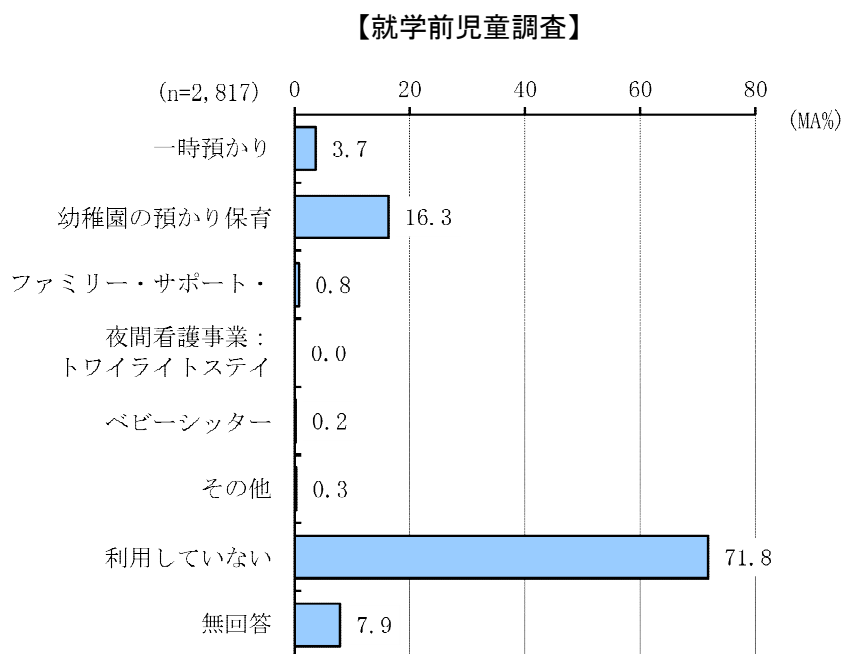


(7) 一時預かりについて

① この一年間に不定期に子どもを預かる事業の利用状況

「利用していない」が7割と多くなっています。

利用しているものの中では「幼稚園の預かり保育」が1割台と最も多くなっています。

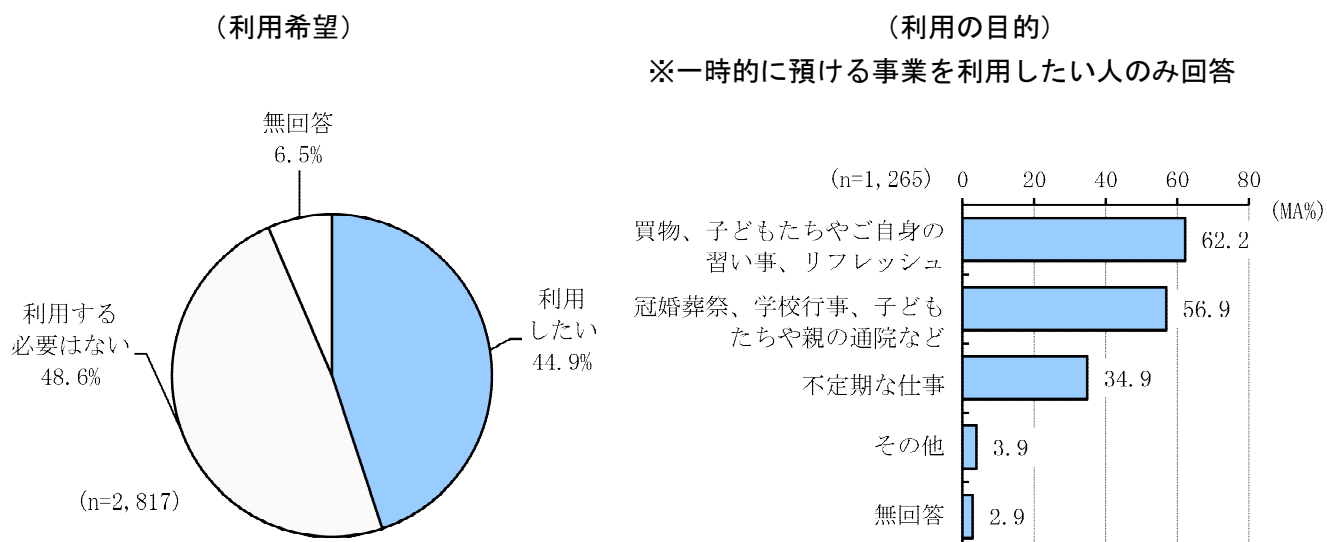


② 子どもを一時的に預ける事業の利用希望とその目的

「利用したい」が4割台となっています。

その目的としては、「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が6割台と最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など」「不規則な仕事」の順となっています。

【就学前児童調査】

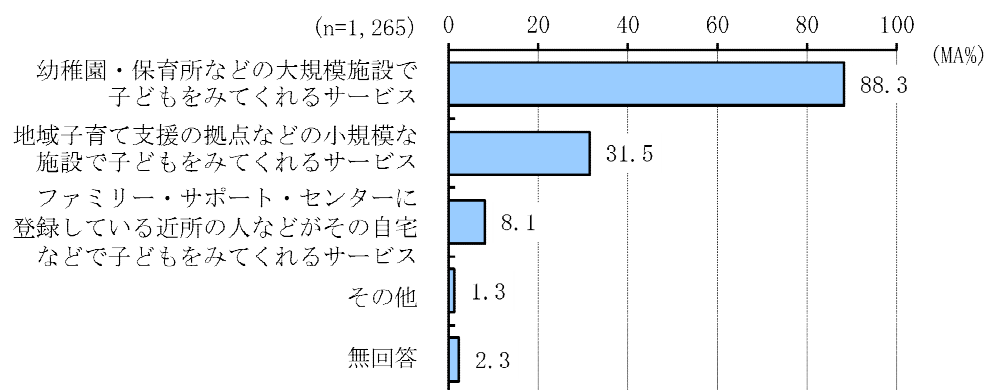


③ 子どもを一時的に預ける事業として望ましい形態

「幼稚園・保育所などの大規模施設で子どもをみてるサービス」が9割近くを占めて最も多く、次いで「地域子育て支援の拠点などの小規模な施設で子どもをみてるサービス」が3割となっています。

【就学前児童調査】

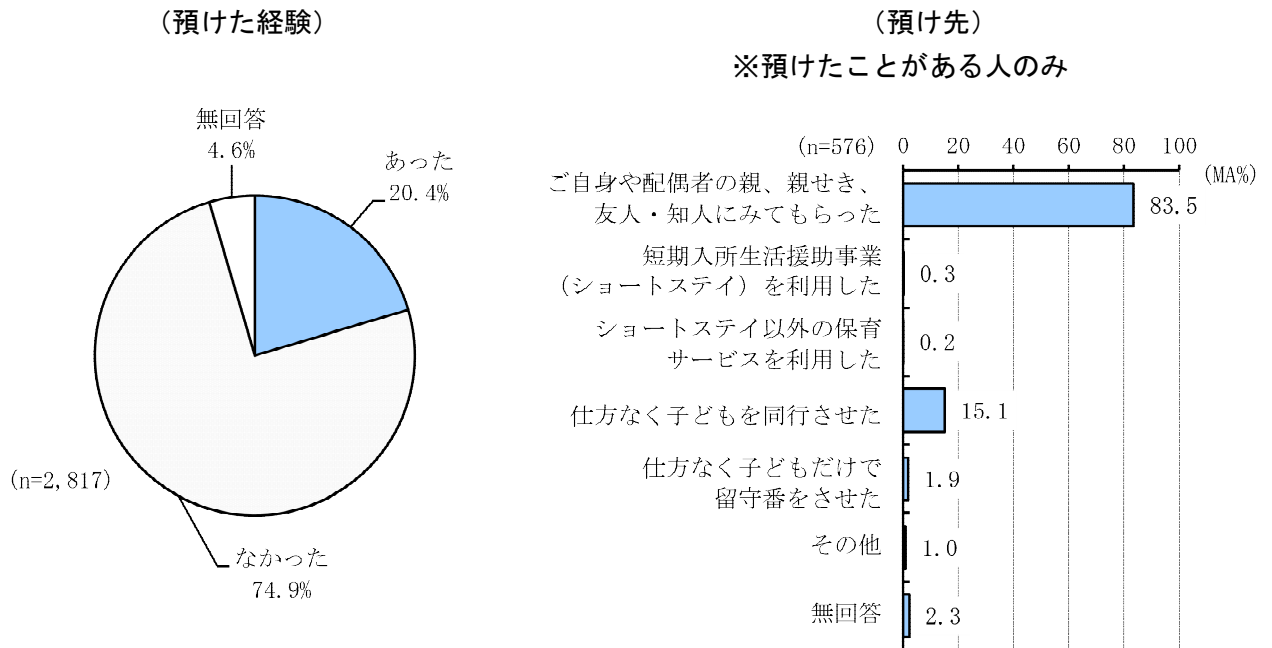
※一時的に預ける事業を利用したい人のみ



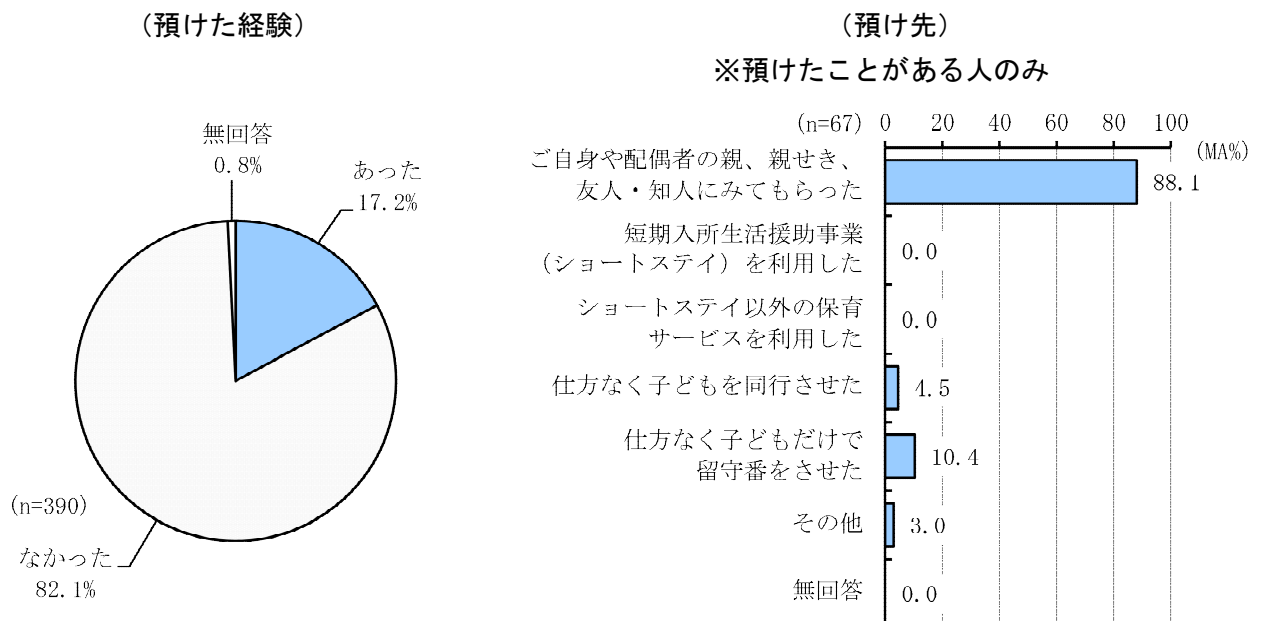
④ この１年間に子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験の有無とその対応

預けた経験については、就学前児童で20.4%、就学後児童で17.2%と就学前児童の方がやや高くなっています。預け先は就学前児童、就学後児童とも「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」が8割台で最も多く、就学前児童では「仕方なく子どもを同行させた」が、就学後児童では「仕方なく子どもだけで留守番させた」が、それぞれ2番目に多くなっています。

【就学前児童調査】



【就学後児童調査】

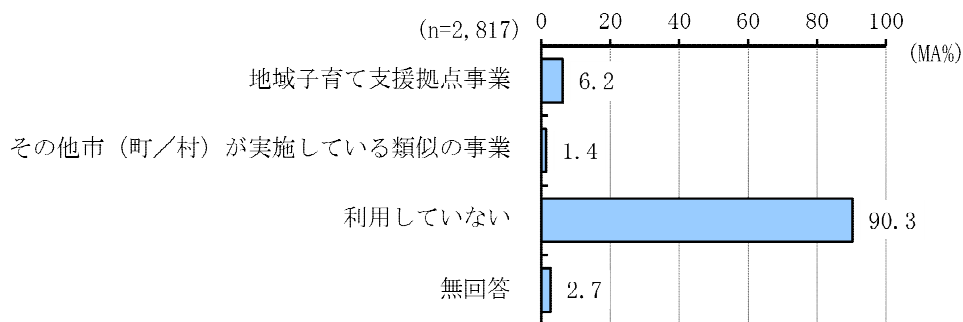


(8) 地域子育て支援拠点事業について

① 地域子育て支援拠点事業の利用状況

「利用していない」が9割を占めています。

【就学前児童調査】



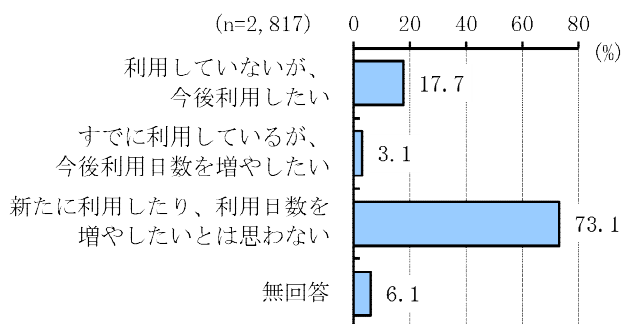
② 地域子育て支援拠点事業の利用希望

今後の利用希望は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたりしたいとは思わない」が73.1%で最も多く、「利用していないが、今後利用したい」が17.7%となっています。

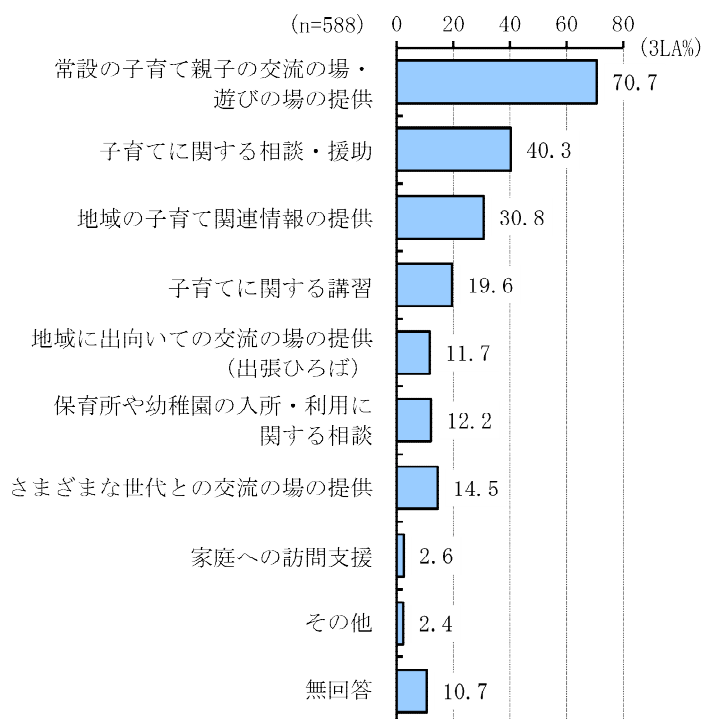
利用したいサービスは、「常設の子育て親子の交流の場・遊びの場の提供」が70.7%で最も多く、次いで「子育てに関する相談・援助」(40.3%)、「地域の子育て関連情報の提供」(30.8%)の順となっています。

【就学前児童調査】

(今後の利用希望)



(利用したいサービス)

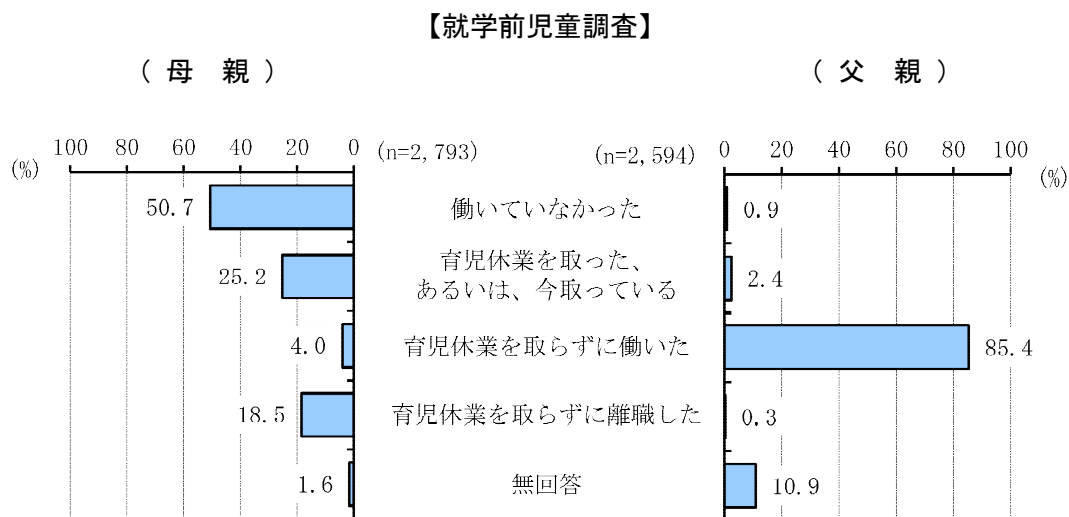


(9) 子育てと仕事の両立について

① 育児休業取得状況

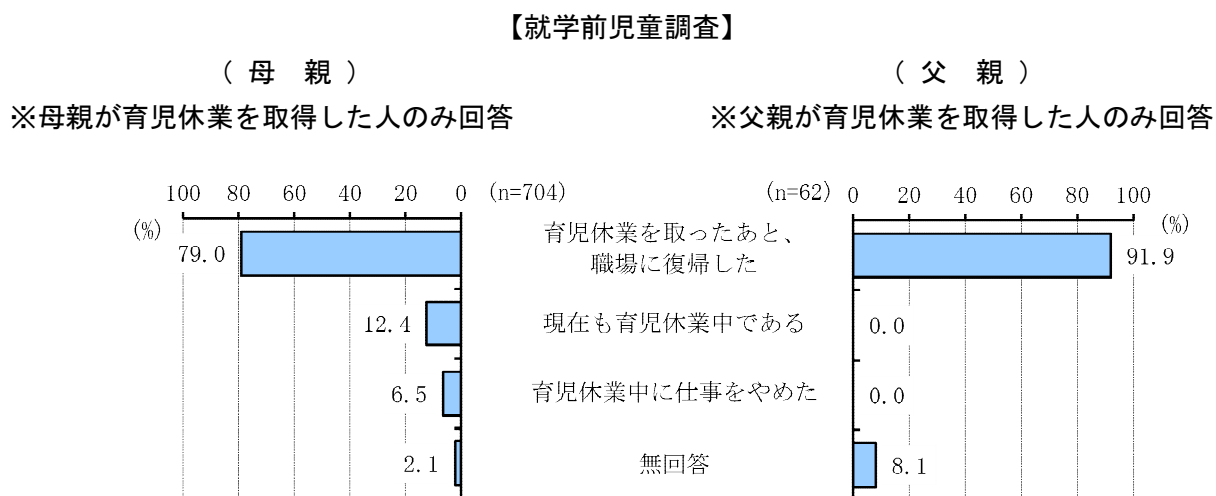
母親は「働いていなかった」が半数を占め、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が25.2%、「育児休業を取らずに離職した」が18.5%、「育児休業を取らずに働いた」が4.0%となっています。

これに対し、父親は「育児休業を取らずに働いた」が85.4%と大半を占めています。



② 育児休業取得後の職場復帰状況

「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」の割合は母親が79.0%であるのに対し、父親は91.9%と父親の方が高くなっています。



③ 育児休業を取得しなかった理由

母親については、育児休業を取得せず働いた人は、その理由として「仕事が忙しかった」(33.9%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(26.8%)が多くなっているのに対し、育児休業を取得せず退職した人は「子育てや家事に専念するため」(35.5%)、「職場に育児休業の制度がなかった」(28.0%)、「仕事に戻るのが難しそうだった」(17.0%)が多くなっています。

【就学前児童調査】

(母 親)

※育休を取得せず働いた人のみ回答

※育休を取得せず退職した人のみ回答

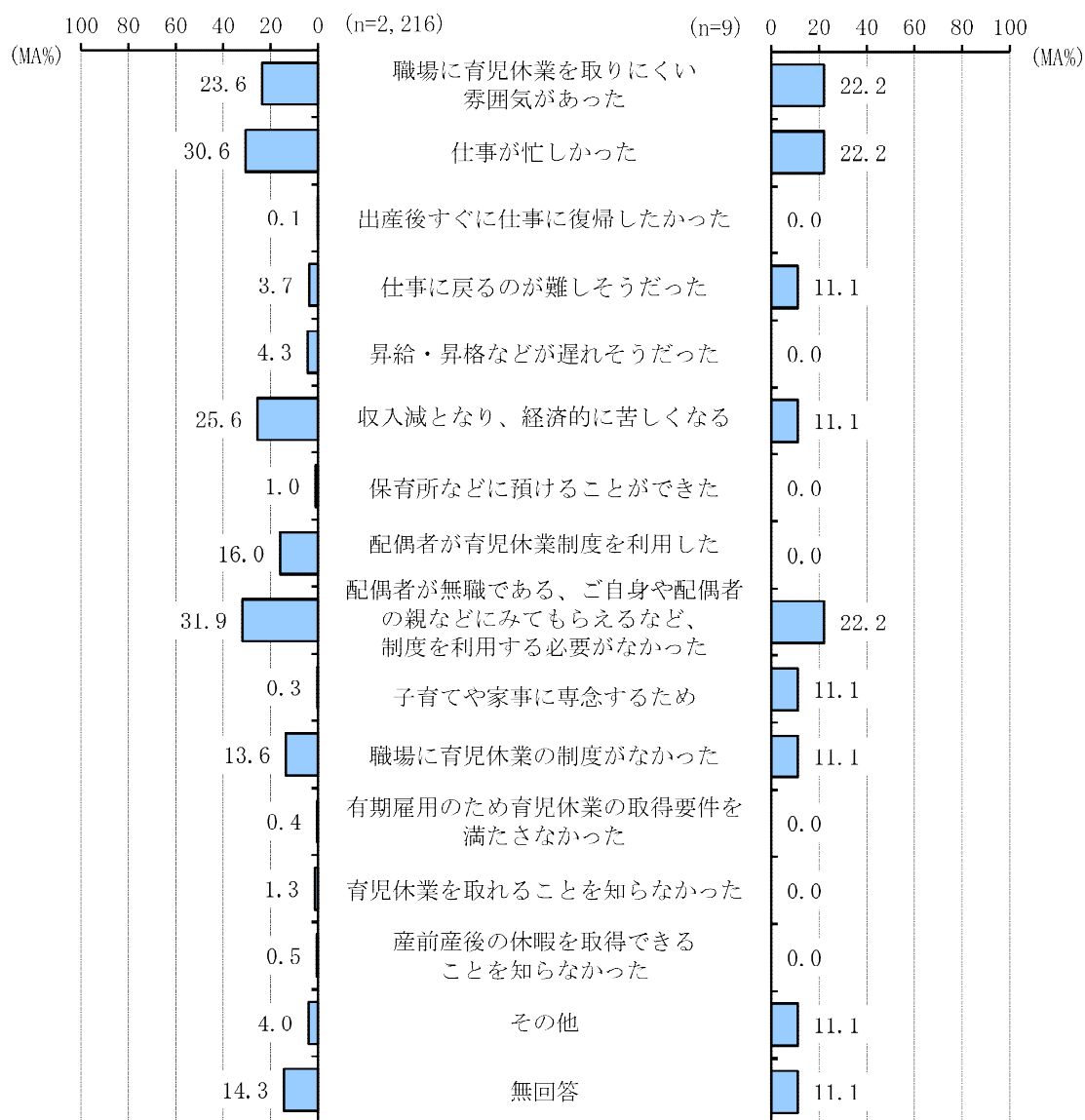


父親については、育児休業を取得せず働いた人がほとんどで、その理由は「配偶者が無職である、ご自身や配偶者の親などにみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が31.9%で最も多く、次いで「仕事が忙しかった」(30.6%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(25.6%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(23.6%)の順となっています。

(父 親)

※育児休業を取得せず働いた人のみ回答

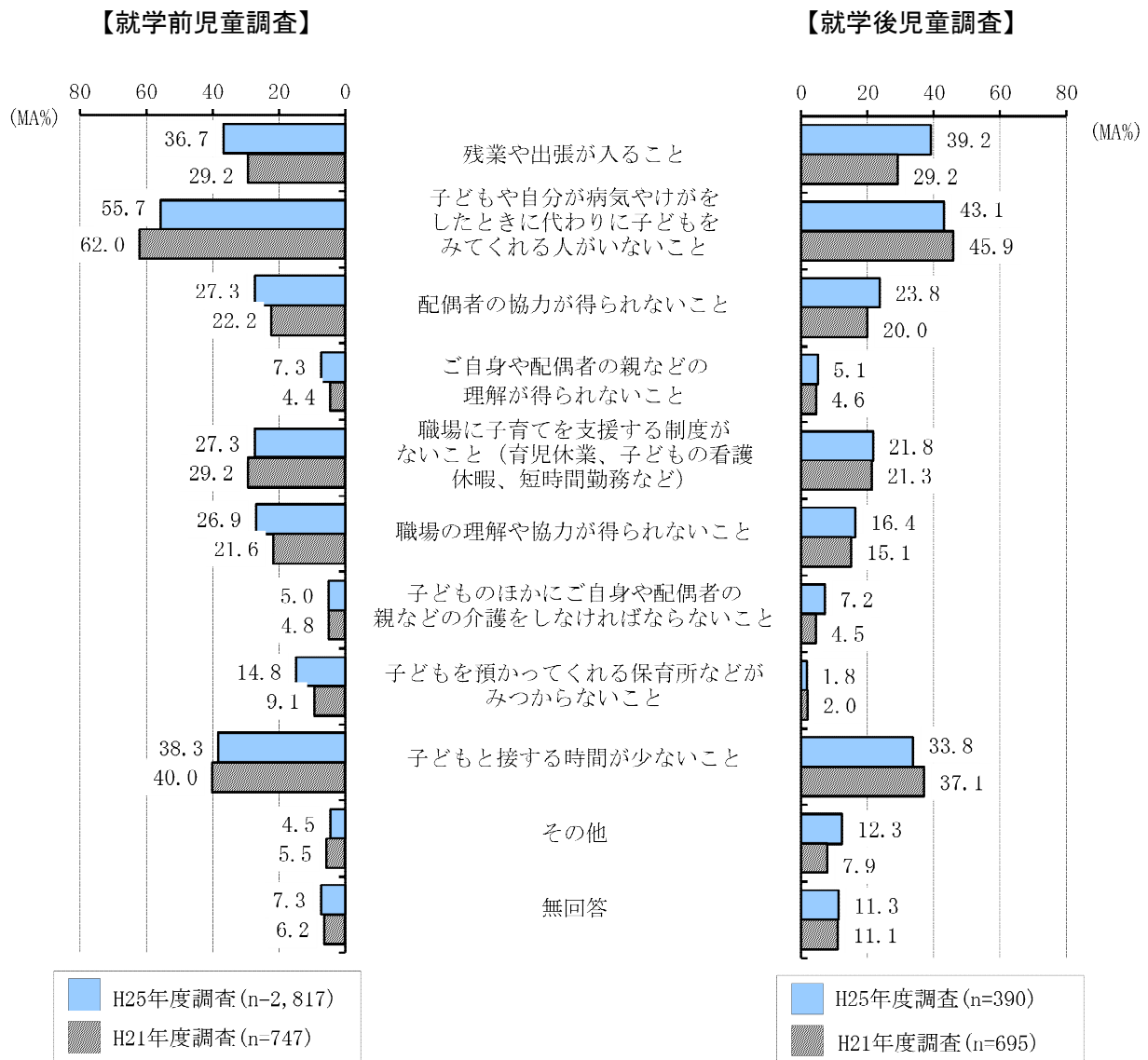
※育児休業を取得せず退職した人のみ回答



④ 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

就学前児童では、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてる人がいないこと」が55.7%で最も多く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」(38.3%)、「残業や出張が入ること」(36.7%)の順となっており、前回調査から順位の変動はありませんが、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてる人がいないこと」の割合が6.3ポイント低下し、「残業や出張が入ること」の割合が7.5ポイント上昇しています。

就学後児童では、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてる人がいないこと」が43.1%で最も多く、次いで「残業や出張が入ること」(39.2%)、「子どもと接する時間が少ないこと」(33.8%)の順となっており、前回調査で2番目に割合が高かった「子どもと接する時間が少ないこと」と3番目に割合が高かった「残業や出張が入ること」の順位が今回調査では入れ替わっています。



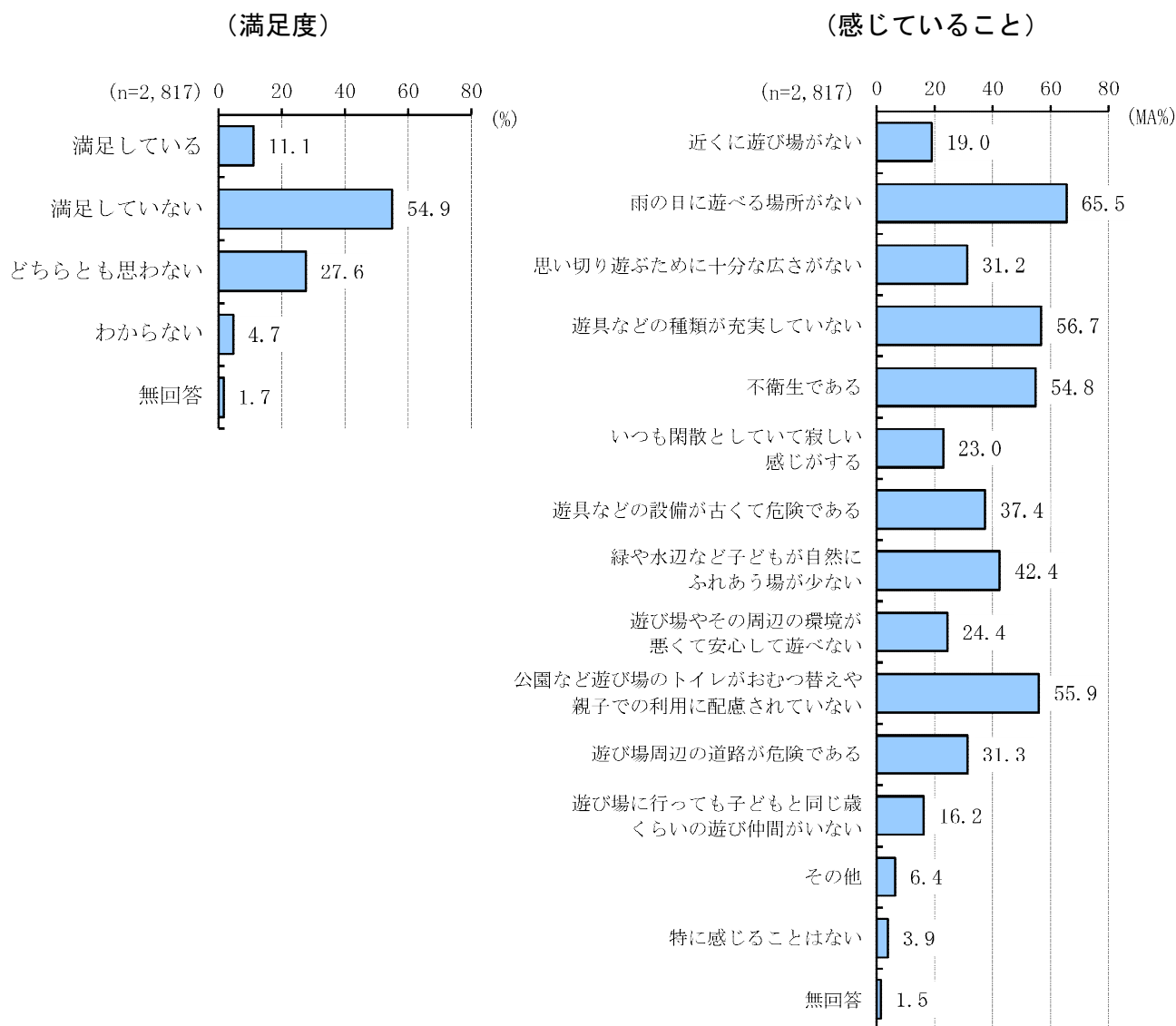
(10) 地域の子育て環境について

① 子どもの遊び場に対する満足度、遊び場について日頃感じていること

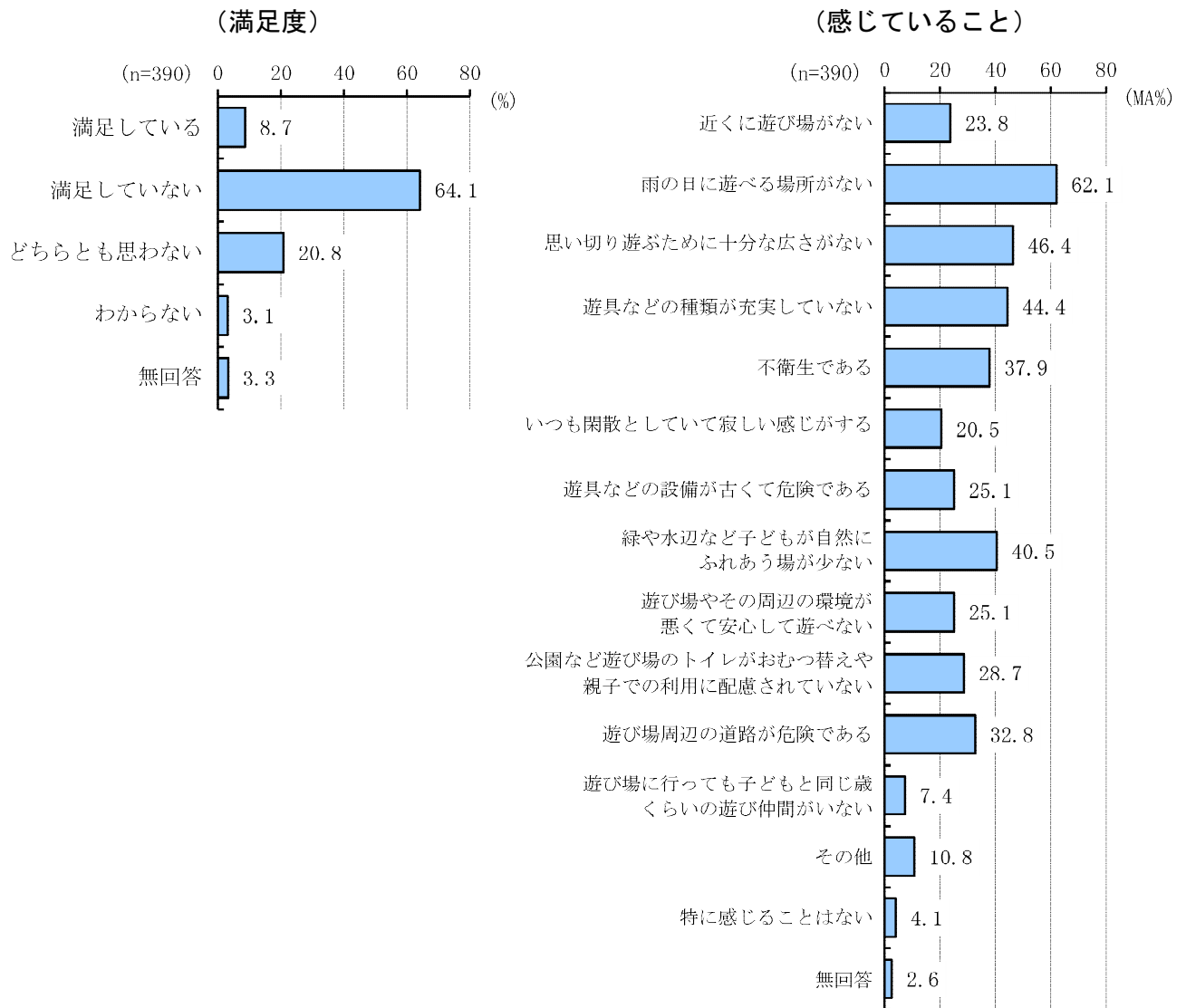
就学前児童、就学後児童とも子どもの遊び場に満足しているのは1割前後で、いずれも満足していない人が過半数を占めています。

遊び場について日頃感じていることは、就学前児童では「雨の日に遊べる場所がない」が65.5%で最も多く、「遊具などの種類が充実していない」「公園など遊び場のトイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」「不衛生である」までが5割を超えています。就学後児童では「雨の日に遊べる場所がない」が62.1%で最も多く、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」「遊具などの種類が充実していない」「緑や水辺など子どもが自然にふれあう場が少ない」が4割台で続いています。

【就学前児童調査】



【就学後児童調査】



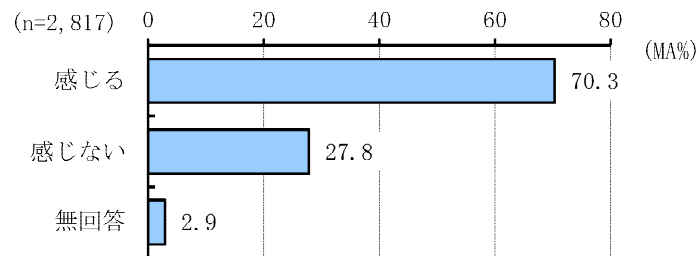
② 子育てが地域の人に支えられている実感の有無、支えてくれている（支えて欲しい）人

就学前児童、就学後児童とも支えられていると感じる人が7割となっています。

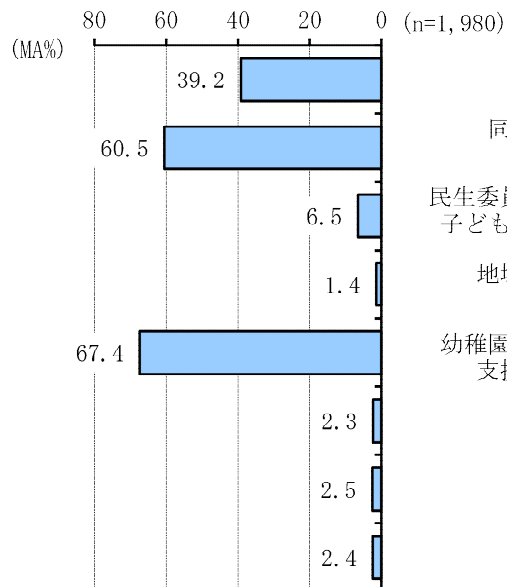
支えられていると感じる人は、就学前児童、就学後児童とも「同じ世代の子どもを持つ保護者」「近所の人」から支えられていると感じる割合が高く、加えて、就学前児童では「幼稚園、保育所、地域子育て支援の拠点などの職員」、就学後児童では「学校の先生」「民生委員・児童委員、自治会、子ども会などの地域団体の人」の割合も高くなっています。

これに対し、支えられていると感じない人も、就学前児童、就学後児童とも「同じ世代の子どもを持つ保護者」「近所の人」に支えてほしいとする割合が高く、加えて、就学前児童では「幼稚園、保育所、地域子育て支援の拠点などの職員」、就学後児童では「学校の先生」の割合も高くなっています。

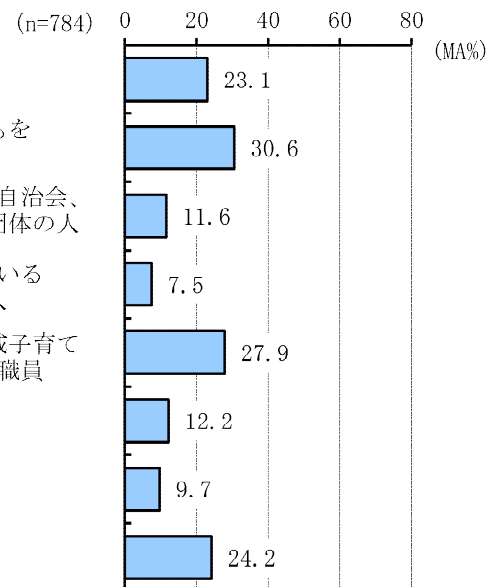
【就学前児童調査】
(支えられている実感の有無)



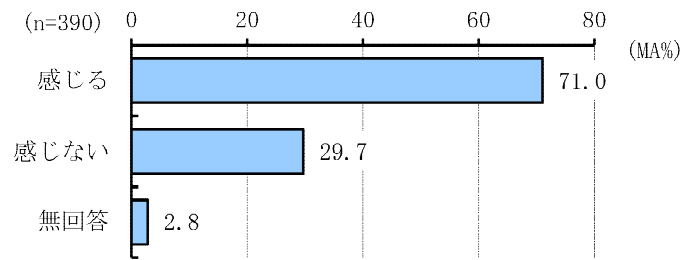
(誰から支えられているか)
※支えられていると感じる人のみ回答



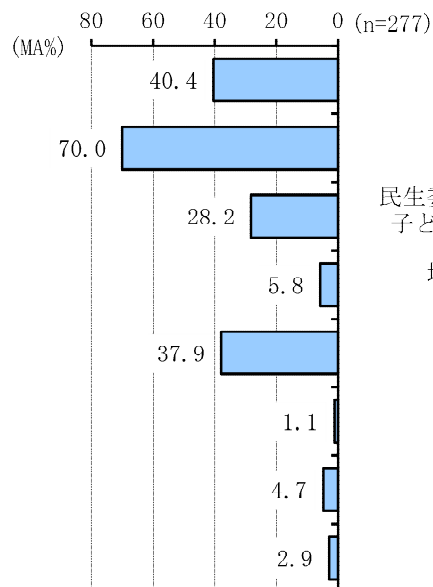
(誰に支えてほしいか)
※支えられていると感じない人のみ回答



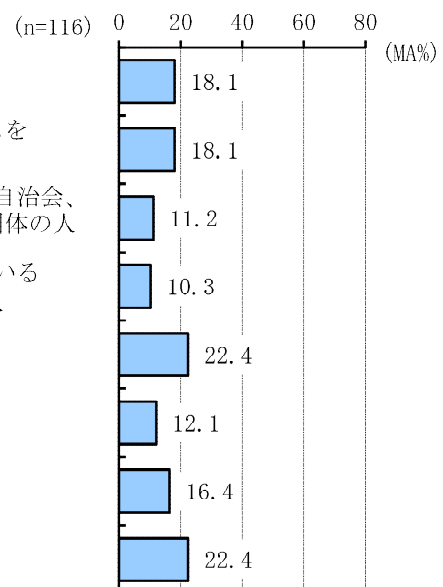
【就学後児童調査】
(支えられている実感の有無)



(誰から支えられているか)
※支えられていると感じる人のみ回答



(誰に支えてほしいか)
※支えられていると感じない人のみ回答

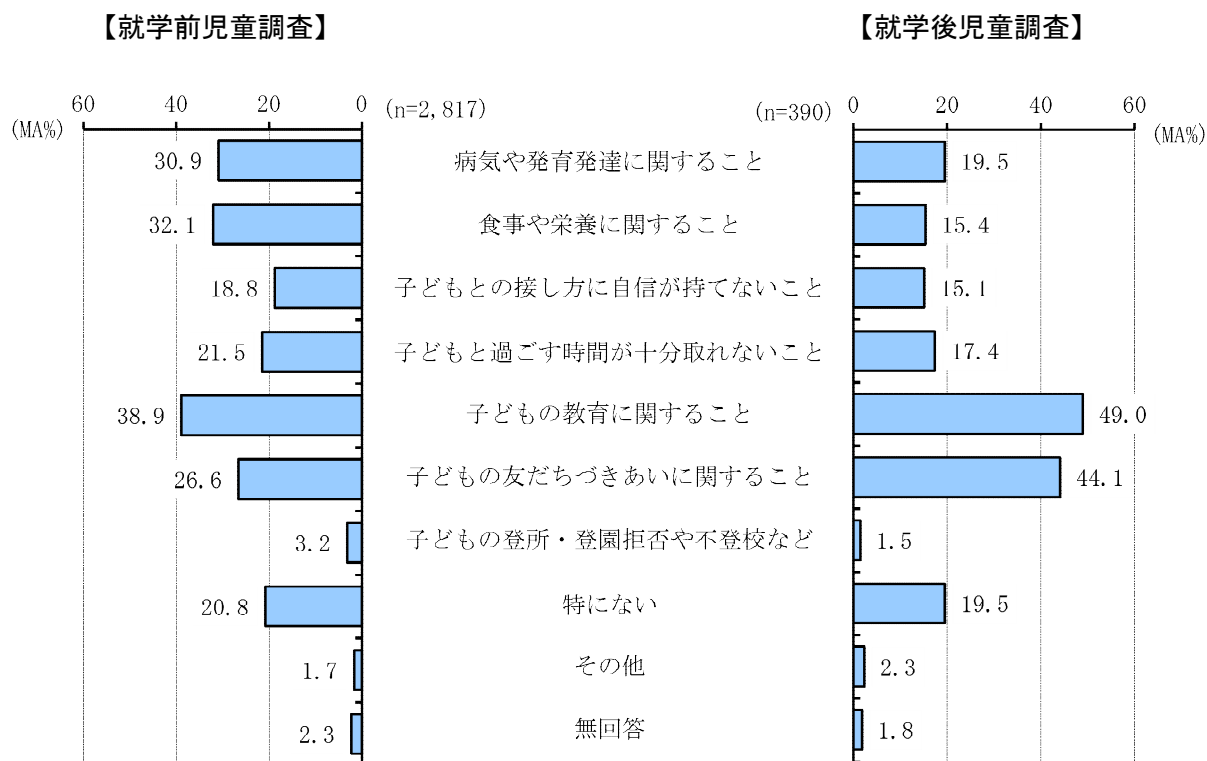


(11) 子育て全般について

① 子育てに関する悩み（子どもに関すること）

就学前児童では「子どもの教育に関すること」が最も多く、次いで「食事や栄養に関すること」「病気や発育発達に関すること」が多くなっています。

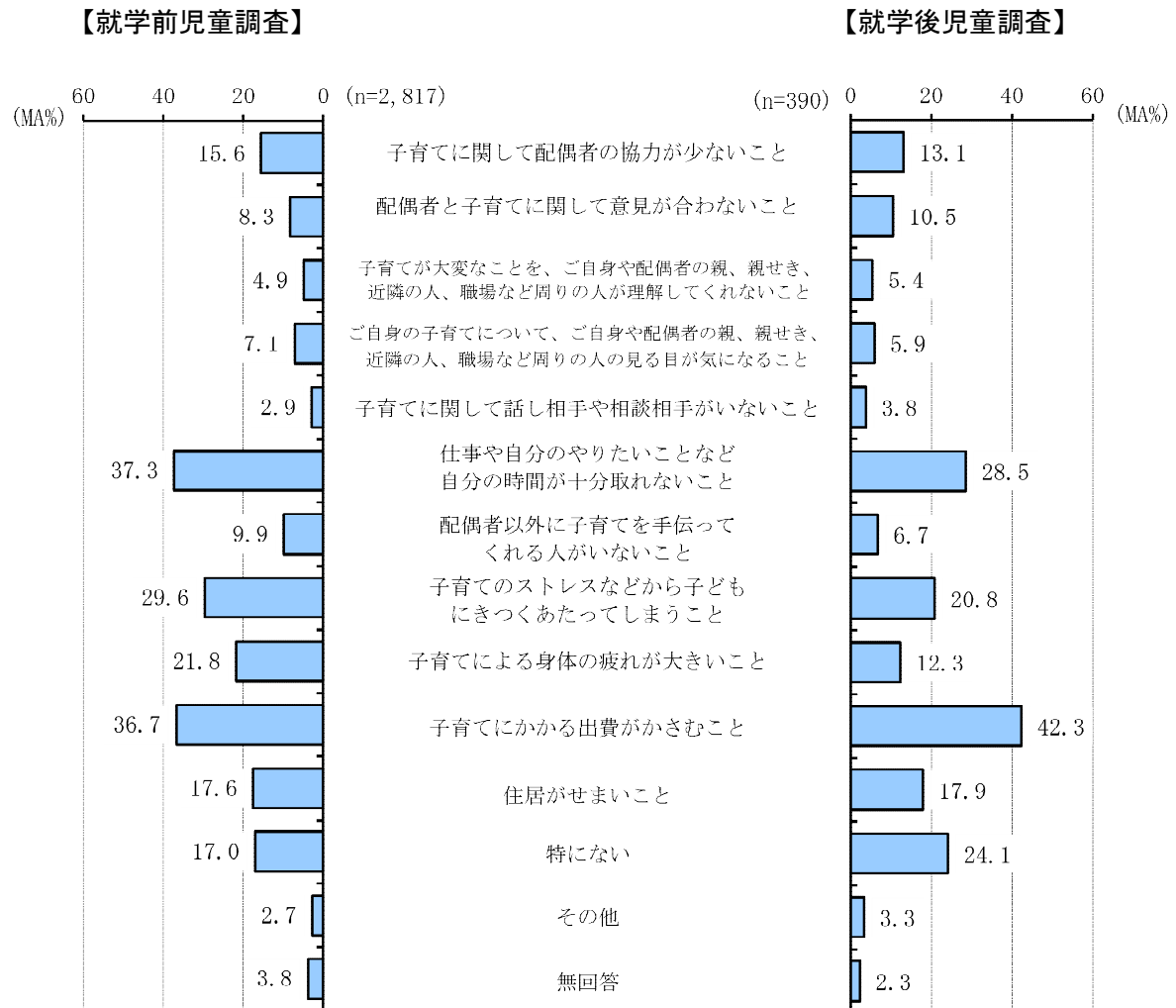
また、就学後児童でも「子どもの教育に関すること」が最も多く、次いで「子どもの友達づきあいに関すること」が多くなっています。



② 子育てに関する悩み（保護者に関すること）

就学前児童では「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」および「子育てにかかる出費がかさむこと」が3割台と多く、次いで「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」(29.6%)となっています。

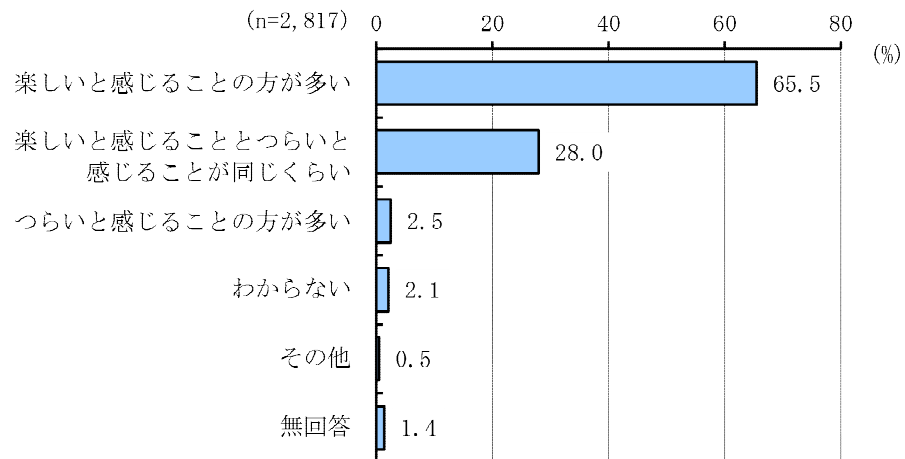
就学後児童では「子育てにかかる出費がかさむこと」が42.3%で最も多く、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」(28.5%)、「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」(20.8%)の順となっています。



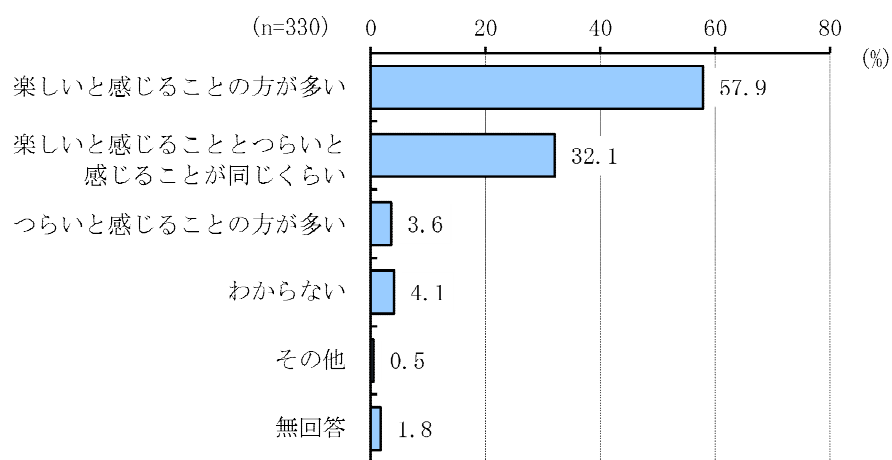
③ 子育てについての気持ち

就学前児童、就学後児童とも「楽しいと感じることの方が多い」が最も多くなっています。

【就学前児童調査】



【就学後児童調査】



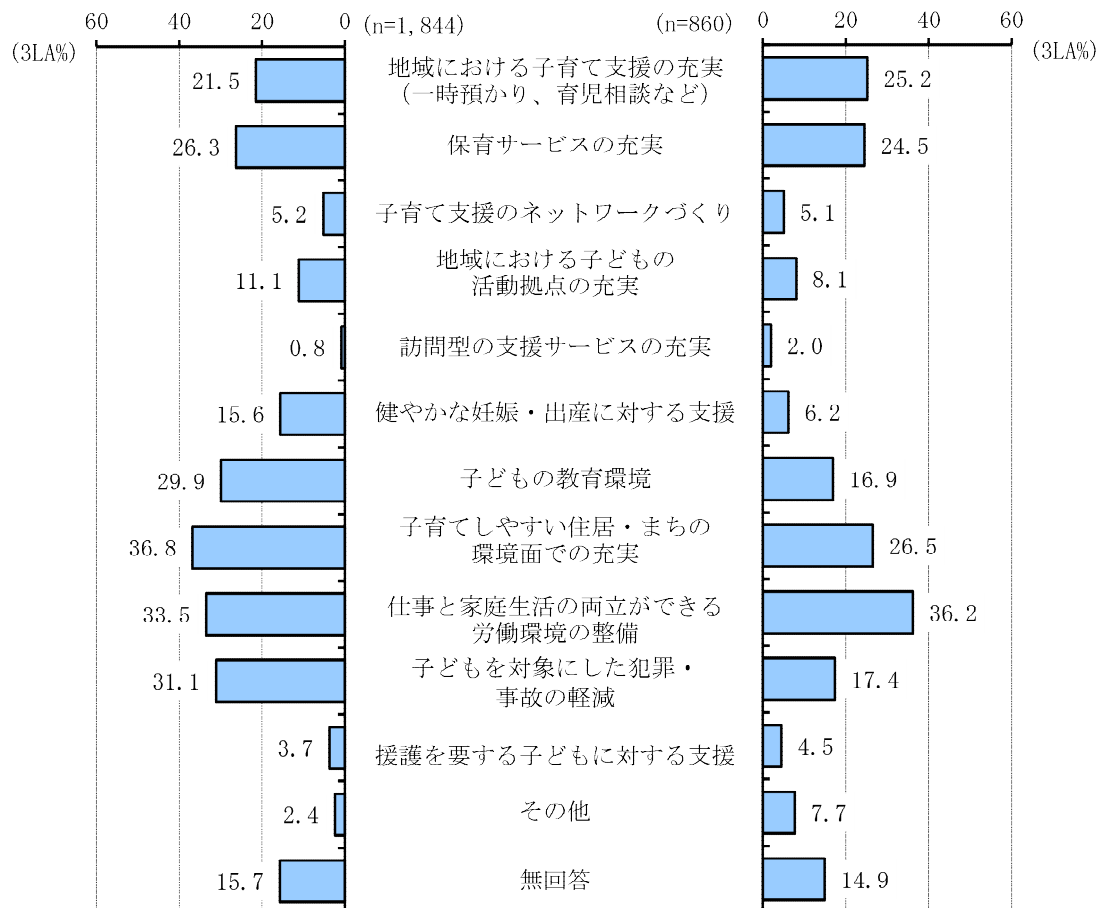
④ 有効だと考える子育て支援施策

就学前児童では、子育てが楽しいと感じる・感じないにかかわらず、「子育てしやすい住居・まちな環境面での充実」と「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が上位を占めています。

【就学前児童調査】

(子育てが楽しいと感じることが多い人)

(子育てについて楽しいとつらいが半々、
つらいと感じることが多い人)

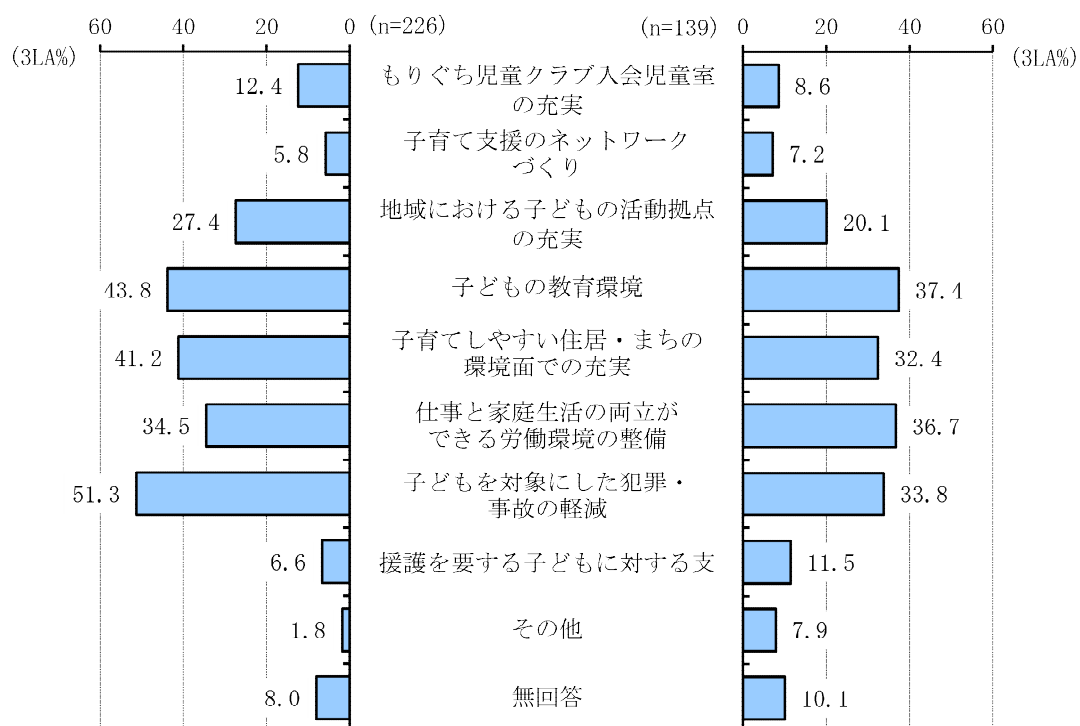


就学後児童では、子育てが楽しいと感じる・感じないにかかわらず、「子どもの教育環境」、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」及び「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」が上位を占めています。

【就学後児童調査】

(子育てが楽しい人)

(子育てについて楽しいとつらいが半々、
つらいと感じることが多い人)



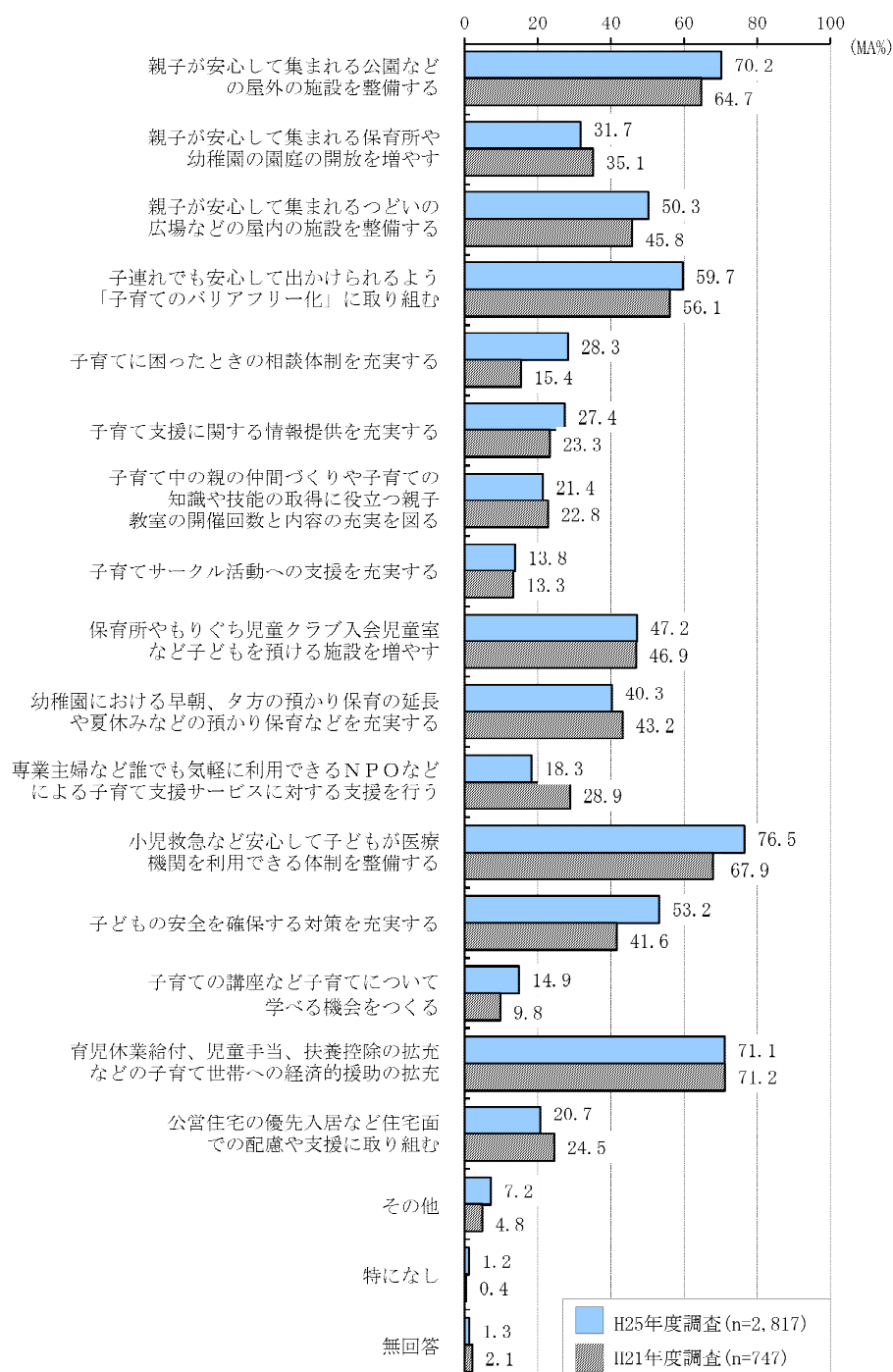
(12) 行政への要望

① 充実してほしい子育て支援サービス

就学前児童では「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」が76.6%で最も多く、次いで「育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」(71.1%)、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」(70.2%)の順となっています。

前回調査に比べ「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」の割合が高くなり、割合の高かった1番目と2番目の順位が今回調査では入れ替わりしました。

【就学前児童調査】



就学後児童では「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」および「育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が同率の65.4%で最も多く、次いで「子どもの安全を確保する対策を充実する」(50.0%)の順となっています。

【就学後児童調査】

